日本語と漢字

――授業用資料――

2016年度後期版

慶熙大學校 外國語大學 日本語學科

はじめに

漢字はもともと、中国語を書き記すために考え出された文字です。日本には中国文化の流入とほぼ同じ時期に漢字が伝わりましたが、最初は中国語音を日本語化した読み方（「音読み」）しかなかったようです。その後、日本語を漢字に当てはめた「訓読み」が発生します。これによって、漢字は中国からの借用語（漢語）だけでなく、日本固有の言葉（和語）を書き表すのにも使えるようになりました。

漢字は日本語の表記になくてはならない文字の１つです。ひらがな・カタカナも、その源流は漢字の草書体・省略形にさかのぼります。しかし、日本語と漢字が密接になりすぎてしまったせいで、日本語は「ひらがな」「カタカナ」「漢字」の３種類の文字を状況により使い分けなければいけなくなってしまいました。さらに漢字の読み方も、いろいろな事情が重なって、音読み・訓読みがともに複数あるのが普通です。

日本語を読み、書くときには、どんな文字を使えば良いか、漢字をどう読めば良いかを常に考え、うまく区別し、使い分けることが要求されます。日本では漢字をただ覚えるだけでなく、実際に読んだり書いたりすることにも慣れなければ、新聞や本を読んだり、手紙や日記を書いたりすることができないのです。

この授業では、主に漢字が現代の日本でどのように使われているか、それが日本語の表記上どのような意味を持つか、韓国で用いられる漢字とどのように違っているかについて説明していきます。退屈な内容が続くところもありますが、実際の授業では学生の皆さんの興味がわくような話を多く入れて、楽しく進めていくつもりです。３ヶ月ちょっとの間、よろしくお付き合いください。

日本語と漢字　授業担当　東ヶ崎 祐一
（慶熙大学校外国語大学日本語学科 助教授、日本語学）

目　次

壱　漢字の歴史 …… 3

弐　日本の漢字の現況 …… 8

参　部首の紹介 ……20

肆　日本独自の漢字の発展 ……33

伍　日本漢字音 ……43

壱　漢字の歴史

1　漢字の歴史（非常に大ざっぱに）

起源伝説 黄帝の代に倉頡（そうけつ）が砂浜を歩いた鳥の足跡を参考に作った。
考古学的事実 紀元前1500年ごろから甲骨文字が出現。
　甲骨文字：占いに使った獣の骨や亀の甲に占いの結果を彫り込んだもの。
　金文：青銅器に鋳込まれた字。

春秋・戦国時代：各地に様々な形の文字が出現（古文・籀文（大篆））
秦代：始皇帝が文字を統一（小篆・篆書体）。
　～漢代：篆書を簡略にした隷書が出現。
　隷書の崩れた書体┬（非常に崩れる／章草体）─草書体┬──→
　　├──（弱く崩れる）──┬──┴──→行書体
　　└──┴──（再整形）──→楷書体
宋代：印刷書体の出現（宋朝体）→明代・清代：明朝体

漢字の辞書 Dictionary に３種類を区別。
　義書（意味による分類）：『爾雅』（前漢?）、『広雅』（魏、張揖）
　字書（形による分類）：『説文解字』（後漢永元12 (100)、許慎）、『玉篇』（梁、顧野王）、
　　『大広益会玉篇』（宋大中祥符6(1013)、陳彭年等、『玉篇』の最終改訂版）、
　　『字彙』（明万暦43(1615)、梅膺祚）『康熙字典』（清康熙55(1716)、勅撰）
　韻書（読みによる分類）：『切韻』（隋仁寿元(601)、陸法言）、『広韻』（宋大中祥符元(1008)、
　　陳彭年等、『切韻』の改訂版）、『集韻』（宋景祐4(1037)、丁度、『広韻』の改訂版））
　　『古今韻会挙要』（元大徳元(1297)、熊忠）『洪武正韻』（明洪武8(1375)、勅撰）

2　日本の漢字の歴史

渡来伝説 応神天皇16年２月（286年、実際には４世紀末～５世紀初？）、百済から王仁（わに）が『論語』『千字文』を携え招聘される。
考古学的事実 西暦57年（後漢光武帝、建武中元２年）倭の奴国（なノくに、現在の福岡市博多区付近）の王が後漢に入貢し、「漢委奴国王」の印綬を下賜される（後漢書東夷伝）が、そのときの金印とみられるものが福岡県志賀島で発見されている（日本最古の漢字？）。

372年(?)に百済の近肖古王から贈られたとされる七支刀が奈良県石上神宮にあり、また471年(?)の年号のある鉄剣が埼玉県の稲荷山古墳から出土していて、いずれにも漢文で制作事情等が記されている。この頃には漢字を使いこなせる層が広く存在していたようであるが、主な担い手は中国・朝鮮からの渡来人の子孫だったようである。
※漢字音の「呉音」は、百済経由で伝わったとの説あり。

日本化 漢文が公用の文章→日本語が書きにくい！
漢字の訓（意味）で日本語を書く→訓読みの発生→漢文訓読
漢字の音で日本語を書く→万葉仮名→ひらがな・カタカナの源流
①漢文の日本語化
A: 助詞などを点や線で指示（ヲコト点）
漢字を省略して、漢字の音訓・助詞などを書くのに使う→カタカナの発生
返り点（レ点、一二点など）を付けて読む順番を指示→漢文訓読の発生
B: 文法の日本語化（SVO→SOV、前置詞→後置詞）
助字を日本語風の意味に使う（「被」受動→尊敬）
日本語独自の助字の発生（「度（たく）」「候（そうろう）」など）
→変体漢文（記録体）→候文（近世公文書・手紙に使われた文体）
C: 名詞や動詞など独立語を大きな字で、助詞や送り仮名を小さな字で書く（宣命体）
漢語の日本語化・和文との融合
→漢字と仮名を混ぜて書く（和漢混淆文）→「漢字仮名混じり文」へ
②万葉仮名からひらがなへ
万葉仮名（普通の漢字と同じ）→草書体（崩し字）で書かれる（草仮名）
→崩しすぎて元の字とは別な字に（ひらがなの発生）
平安時代には、基本的に日本語文はひらがなだけで書く。
中世以降、漢語の増加などにより、漢字を平仮名に混ぜて書くことが一般化する。
仮名は１音節に何種類もあったが、1900年（明治33年）の「小学校令」で１音１字に定められ、規定外の仮名は「変体仮名」と呼ばれるようになった。

日本の字書 字書の抜き書きと思われる８世紀初の木簡が奈良県飛鳥池遺跡から出土
（682年天武天皇が『新字』44巻を作らせたとの『日本書紀』の記述に関係？）
『新撰字鏡』(900頃、昌住) 最古の漢和辞典 『類聚名義抄』(1100頃) アクセント記述
『聚分韻略』(1307年、虎関師錬) 日本で刊行された韻書
『倭玉篇』(室町初期) 字書の代名詞 『節用集』(室町中期) 字引として広く使われる
『大漢和辞典』(1960初版、1990修訂2版、2000補巻、諸橋轍次)日本最大の漢字辞書

コラム　いろいろな書体

筆記具、書道や印刷技術の発達に伴い、漢字にもいろいろな書体ができました。以下、その一部を紹介します。

・筆写体

篆書体：秦の李斯が古い文字を改良したという中国初の統一書体。今でも印章で活躍。

篆書體：天地玄黄宇宙洪荒日月

隷書体：秦代に現れ漢代に発展。リズム感があってかっこいいがテクニックが必要。

隷書体：天地玄黄宇宙洪荒日月

楷書体：漢末～晋代に現れた隷書の発展形。直線的でわかりやすく、唐以降は標準書体に。

楷書体：天地玄黄宇宙洪荒日月

行書体：速く書けるので手書きに活躍。日本では近世以前に公文書にも使われた。

行書体：天地玄黄宇宙洪荒日月

草書体：行書を更に崩したようだが実は篆書や隷書の速書きから発展。もはやアート。

草書体：天地玄黄宇宙洪荒日月

勘亭流：江戸時代に公文書で使われた書体「御家流」から発展的に発生した書体。
太い字でインパクト抜群。伝統芸能ではまだまだ現役。
歌舞伎や相撲、落語など使用分野によってバリエーションあり。
太い線と隙間のない構成は「お客が隙間なく来てほしい」という願いから。

勘亭流：天地玄黄宇宙洪荒日月

・印刷体

宋朝体：宋代の印刷物に使われたという書体。中国では「仿宋体」と呼ぶ。涼しげ。

仿宋体：天地玄黄宇宙洪荒日月

明朝体：宋代に原型発生、明代に発展。中国では「宋体」「明体」と呼ばれる。
読みやすいので印刷物に大活躍。

宋体：天地玄黄宇宙洪荒日月(中国のフォント)

明朝体：天地玄黄宇宙洪荒日月(日本の)

ゴシック体：欧米の「サンセリフ」をもとにした字体。本文にも強調部分にも使える。

ゴシック体：天地玄黄宇宙洪荒日月

ゴシック体：天地玄黄宇宙洪荒日月

丸ゴシック体：天地玄黄宇宙洪荒日月

教科書体：日本で初等教育のために楷書体を改良。線がわかりやすいので字の手本に。

教科書体：天地玄黄宇宙洪荒日月

コラム　六書：漢字の造字原理

漢字の作り方を『説文解字』では６種類に分類しています。この分類は便利なので、今でも漢字の構成を説明する際にはよく使われます。(文字は甲骨文字を示した)

①象形：物の形をかたどって字形を作る。

日 月 火 水 木 土 山 目 耳 口

人 牛 羊 犬 豕 馬 象 虎 鹿

鳥 鳳 鶏 燕 魚 龍 虫 亀

②指事：位置や状態といった抽象概念を表す。

上 下 止 大 小 力 友

③形声：カテゴリを表す「意符」と音を表す「声符」とを組み合わせて字を作る。

河 室 酒 姜

④会意：既存の字を組み合わせて新しい意味を表す字を作る。

林 炎 飲 棄

⑤転注：諸説あるが、漢字の意味を変化させて別な意味に使うことという。

長： ながい→おさ・リーダー

令： おおせる・命令する→～しむ・～させる

樂： おと・音楽→たのしむ

また、互いに同じような意味に通用することという説もある。

老←→ 考（もとは「年寄り」の意味）

⑥仮借：他の同音・類字音の字を借用すること。

我： のこぎりのような刃の武器→われ（わたし）

其： み(箕)→それ

來： むぎ→くる

弐　日本の漢字の現況

1　常用漢字

常用漢字は日本の公文書やメディア・教育などでの使用漢字の基準。

1.1 制定の歴史

1923年（大正12年）

文部省臨時国語調査会が1962字およびその略字154字を「常用漢字」として制定。

1931年（昭和6年）

「常用漢字表及仮名遣改定案に関する修正」にて1858字に修正(－147字＋45字)。

1942年（昭和17年）

国語審議会が「標準漢字表」2528字を作成。

うち1134字を常用漢字、1320字を準常用漢字とする。

1945年（昭和20年）

国語審議会が「常用漢字表（1295字)」案を発表（－88字＋249字)。

1946年（昭和21年）

11月16日、上記案を修正した「当用漢字表」1850字が告示される。

1981年（昭和56年）

文部省国語審議会の決定により「常用漢字表」1945字が制定、公布される。

（当用漢字＋95字、１字字体変更《燈→灯》)

2008年（平成20年）

5月12日、常用漢字表追加字の第１次素案218字発表。

6月16日、追加候補が188字に、また5字「銑、錘、勺、夂、脹」を削除。

9月22日、追加候補から「蒙」を除外、新たに「刹、椎、賭、遡」を候補に追加。

追加候補が191字になる。

2009年（平成21年）

10月23日、新たに９字「柿、哺、楷、睦、釜、錮、賂、勾、毀」を候補に追加、また「聘、憚、哨、諜」が追加候補から外されることになり、追加候補は196字になる。

字体については、2004年制定「表外漢字字体表」の形を印刷標準字体とし、手書き字体と形が違う字（しんにゅうの「辶：辶」など）については[ ]で囲い、注意を喚起した。

2010年（平成22年）

6月7日の第51回文化審議会総会で、改定常用漢字表を答申。

11月30日、内閣告示により施行。

1.2 現在の常用漢字表

内容はここでは全体を示すことができませんので、興味のある人は文化庁の
http://kokugo.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/kijun/naikaku/kanji/index.html
をご覧ください。

1.3 常用漢字表付表

ここには常用漢字表で示すことのできない、複数の漢字でひとつの和語をあらわしたりする熟語（熟字訓）が入っています。

明日	あす
小豆	あずき
海女・海士	あま*
硫黄	いおう
意気地	いくじ
田舎	いなか
息吹	いぶき
海原	うなばら
乳母	うば
浮気	うわき
浮つく	うわつく
笑顔	えがお
叔父・伯父	おじ
大人	おとな
乙女	おとめ
叔母・伯母	おば
お巡りさん	おまわりさん
お神酒	おみき
母家	おもや
神楽	かぐら
母さん	かあさん*
河岸	かし
鍛冶	かじ*
風邪	かぜ
固唾	かたず*
仮名	かな
蚊帳	かや
為替	かわせ
河原	かわら
川原	かわら
昨日	きのう
今日	きょう
果物	くだもの
玄人	くろうと
今朝	けさ
景色	けしき
心地	ここち
居士	こじ*
今年	ことし
早乙女	さおとめ
雑魚	ざこ
桟敷	さじき
差し支える	さしつかえる
五月	さつき*
早苗	さなえ
五月雨	さみだれ
時雨	しぐれ
尻尾	しっぽ*
竹刀	しない
老舗	しにせ*
芝生	しばふ
清水	しみず
三味線	しゃみせん
砂利	じゃり
数珠	じゅず
上手	じょうず
白髪	しらが
素人	しろうと
師走	しわす
数寄屋・数奇屋	すきや
相撲	すもう
草履	ぞうり
山車	だし
太刀	たち
立ち退く	たちのく
七夕	たなばた
足袋	たび
稚児	ちご
一日	ついたち
築山	つきやま
梅雨	つゆ
凸凹	でこぼこ
手伝う	てつだう
伝馬船	てんません
投網	とあみ
父さん	とうさん*
十重二十重	とえはたえ
読経	どきょう
時計	とけい
友達	ともだち
仲人	なこうど
名残	なごり
雪崩	なだれ
兄さん	にいさん
姉さん	ねえさん
祝詞	のりと
博士	はかせ

二十	はたち	部屋	へや	木綿	もめん
二十歳	はたち	迷子	まいご	最寄り	もより
二十日	はつか	真面目	まじめ*	八百長	やおちょう
波止場	はとば	真っ赤	まっか	八百屋	やおや
一人	ひとり	真っ青	まっさお	大和	やまと
日和	ひより	土産	みやげ	弥生	やよい*
二人	ふたり	息子	むすこ	浴衣	ゆかた
二日	ふつか	眼鏡	めがね	行方	ゆくえ
吹雪	ふぶき	猛者	もさ	寄席	よせ
下手	へた	紅葉	もみじ	若人	わこうど

※ *が付いているものは、改定常用漢字表制定に従い追加、または改訂されたもの。

2　新字体と旧字体

昔から難しい字には略字（字画を簡単にした字）がありましたが、当用漢字制定以降、漢字表に入っている字は略字が正字体（新字体）になりました。これに対して伝統的な字体を旧字体と言います。旧字体は、韓国で使われている漢字の字体とほとんど同じです。

(1) 字を思い切って簡単にしたもの（以下、上が新字体、下が旧字体）

圧 医 囲 円 塩 応 画 会 岳 缶 旧 芸 欠 県 広 号 国 蚕 糸 実 写 寿 処 条 尽
壓 醫 圍 圓 鹽 應 畫 會 嶽 罐 舊 藝 缺 縣 廣 號 國 蠶 絲 實 寫 壽 處 條 盡

図 声 双 体 台 団 虫 庁 点 当 弐 売 弁 弁 弁 万 与 予 余 竜
圖 聲 雙 體 臺 團 蟲 廳 點 當 貳 賣 辨 瓣 辯 萬 與 豫 餘 龍

(2) 一部分だけかなり簡単にしたもの

壱 駅 欧 殴 桜 仮 価 絵 拡 覚 学 関 気 帰 拠 挙 区 駆 継 献 顕 鉱 済 斎 剤
壹 驛 歐 毆 櫻 假 價 繪 擴 覺 學 關 氣 歸 據 擧 區 驅 繼 獻 顯 鑛 濟 齋 劑

歯 児 辞 湿 釈 渋 称 証 畳 触 嘱 枢 数 斉 窃 摂 属 続 対 滝 択 沢 担 胆 断
齒 兒 辭 濕 釋 澁 稱 證 疊 觸 囑 樞 數 齊 竊 攝 屬 續 對 瀧 擇 澤 擔 膽 斷

痴 昼 鋳 逓 鉄 転 伝 灯 党 独 読 廃 麦 発 蛮 浜 払 仏 並 辺 変 宝 豊 翻 訳
癡 晝 鑄 遞 鐵 轉 傳 燈 黨 獨 讀 廢 麥 發 蠻 濱 拂 佛 竝 邊 變 寶 豐 飜 譯

誉 乱 猟 塁 礼 励 霊 齢 恋 炉 楼 湾
譽 亂 獵 壘 禮 勵 靈 齡 戀 爐 樓 灣

(3) あまり変わってないもの

亜 悪 為 隠 栄 営 衛 穏 壊 懐 楽 陥 勧 歓 観 偽 戯 犠 峡 挟 狭 暁 勲 径 茎
亞 惡 爲 隱 榮 營 衛 穩 壞 懷 樂 陷 勸 歡 觀 僞 戲 犧 峽 挾 狹 曉 勳 徑 莖

恵 渓 経 蛍 軽 鶏 倹 剣 険 検 権 験 厳 効 恒 砕 雑 参 桟 惨 賛 残 収 従 獣
惠 溪 經 螢 輕 鷄 儉 劍 險 檢 權 驗 嚴 效 恆 碎 雜 參 棧 慘 贊 殘 收 從 獸

縦 粛 叙 将 焼 奨 乗 浄 剰 縄 壌 嬢 譲 醸 真 寝 慎 粋 酔 穂 随 髄 静 専 浅

縦 粛 敍 將 燒 奬 乘 淨 剩 繩 壞 嬢 譲 醸 眞 寢 愼 粋 酔 穂 隨 髄 靜 專 淺
戦 践 銭 潜 繊 禅 壮 争 荘 挿 装 総 蔵 臓 堕 帯 滞 単 弾 遅 聴 勅 鎮 稲 届
戰 踐 錢 潛 纖 禪 壯 爭 莊 插 裝 總 藏 臟 墮 帶 滯 單 彈 遲 聽 敕 鎭 稻 屆
悩 脳 覇 拝 秘 褒 満 黙 薬 様 来 覧 両 労
惱 腦 霸 拜 祕 褒 滿 默 藥 樣 來 覽 兩 勞

(4a) わずかな違いしかないもの

奥 殻 巻 圏 捜 騒 闘 盗 髪 抜 揺 謡
奥 殼 卷 圈 搜 騷 鬪 盜 髮 拔 搖 謠

(4b) わずかな違いしかないため旧字体は JIS 規格外

逸 謁 縁 横 黄 温 禍 悔 海 慨 概 喝 渇 褐 寛 漢 器 既 祈 虚 郷 響 勤 謹 薫
逸 謁 緣 横 黄 溫 禍 悔 海 慨 概 喝 渴 褐 寬 漢 器 旣 祈 虛 鄕 響 勤 謹 薰
掲 撃 研 穀 黒 殺 祉 視 煮 社 者 臭 祝 暑 緒 署 諸 渉 祥 状 神 瀬 節 祖 僧
掲 撃 研 穀 黒 殺 祉 視 煮 社 者 臭 祝 暑 緒 署 諸 渉 祥 狀 神 瀨 節 祖 僧
層 巣 増 憎 贈 即 嘆 著 徴 懲 塚 都 徳 突 難 梅 繁 晩 卑 碑 賓 頻 敏 瓶 侮
層 巢 增 憎 贈 卽 嘆 著 徵 懲 塚 都 德 突 難 梅 繁 晩 卑 碑 賓 頻 敏 瓶 侮
福 併 塀 勉 歩 墨 毎 免 戻 頼 欄 隆 虜 緑 涙 類 暦 歴 練 錬 廊 朗 郎 録
福 併 塀 勉 歩 墨 毎 免 戻 賴 欄 隆 虜 綠 涙 類 暦 歷 練 錬 廊 朗 郎 錄

(4c) 筆画の違いしかないため JIS 規格外（一部）

羽 間 兼 嫌 港 告 清 青 雪 全 妥 唐 半
羽 閒 兼 嫌 港 告 淸 靑 雪 全 妥 唐 半

(5a) 実は新字体に別な字を宛てたもの（音や意味には関連があることが多い）

医 缶 芸 欠 県 糸 台 体 虫 灯 党 浜 弁 豊 与 予 余
醫 罐 藝 缺 縣 絲 臺 體 蟲 燈 黨 濱 辨瓣辯 豐 與 豫 餘

(5b) 実は昔の字の復活

画 岳 号 処 万 礼
畫 嶽 號 處 萬 禮

(6a) 改定常用漢字表制定に伴い、字体の差異が問題になるもの（旧字体の形、下段のまま常用漢字表に入るが、新字体に準じた形を使ってもかまわない）

淫 葛 僅 煎 詮 喞 捗 溺 填 賭 剥 箸 蔽 頬　　彙 箋
淫 葛 僅 煎 詮 喞 捗 溺 塡 賭 剝 箸 蔽 頰　　彙 箋（下が一般的である例）

(6b) 改定常用漢字表制定に伴い、「しんにゅう」「しょくへん」の形で、常用漢字表では旧字体の形（辶・飠）だが、新字体の形（辶・食）も使っていい（特に手書きの場合には新字体の形が普通）もの

餌 遡 遜 謎 餅
餌 遡 遜 謎 餠

3　日本の漢字の使用基準

3.1 教育漢字

小学校で教えられる漢字のこと。現在1006字が対象。

◇教育漢字の歴史

1948年「当用漢字別表」として教育漢字881字が制定される。

1968年、115字を備考として追加、1977年正式に教育漢字として追加。(→996字)。

1989年改定（－10字＋20字、1006字）

(1)１年生80字

一右雨円王音下火花貝学気九休玉金空月犬見五口校左三山子四糸字耳七車手十出女小上森人水正生青夕石赤千川先早草足村大男竹中虫町天田土二日入年白八百文木本名目立力林六

(2)２年生160字

引羽雲園遠何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔汽記帰弓牛魚京強教近兄形計元言原戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今才細作算止市矢姉思紙寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親図数西声星晴切雪船線前組走多太体台地池知茶昼長鳥朝直通弟店点電刀冬当東答頭同道読内南肉馬売買麦半番父風分聞米歩母方北毎妹万明鳴毛門夜野友用曜来里理話

(3)３年生200字

悪安暗医委意育員院飲運泳駅央横屋温化荷界階寒感漢館岸起期客究急級宮球去橋業曲局銀区苦具君係軽血決研県庫湖向幸港号根祭皿仕死使始指歯詩次事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乗植申身神真深進世整昔全相送想息速族他打対待代第題炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄転都度投豆島湯登等動童農波配倍箱畑発反坂板皮悲美鼻筆氷表秒病品負部服福物平返勉放味命面問役薬由油有遊予羊洋葉陽様落流旅両緑礼列練路和開

(4)４年生200字

愛案以衣位囲胃印英栄塩億加果貨課芽改械害各覚完官管関観願希季紀喜旗器機議求泣救給挙漁共協鏡競極訓軍郡径型景芸欠結建健験固功好候航康告差菜最材昨札刷殺察参産散残士氏史司試児治辞失借種周祝順初松笑唱焼象照賞臣信成省清静席積折節説浅戦選然争倉巣束側続卒孫帯隊達単置仲貯兆腸低底停的典伝徒努灯堂働特得毒熱念敗梅博飯飛費必票標不夫付府副粉兵別辺変便包法望牧末満未脈民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例歴連老労録街

(5)５年生185字

圧移因永営衛易益液演応往桜恩可仮価河過賀解格確額刊幹慣眼基寄規技義逆久旧居許境均禁句群経潔件券険検限現減故個護効厚耕鉱構興講混査再災妻採際在財罪雑酸賛支志枝師資飼示似識質舎謝授修述術準序招承証条状常情織職

制性政勢精製税責績接設舌絶銭祖素総造像増則測属率損退貸態団断築張提程適敵統銅導徳独任燃能破犯判版比肥非備俵評貧布婦富武復複仏編弁保墓報豊防貿暴務夢迷綿輸余預容略留領快

(6)6 年生181字

異遺域宇映延沿我灰拡革閣割株干巻看簡危机貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇激穴絹権憲源厳己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座済裁策冊蚕至私姿視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆従縦縮熟純処署諸除将傷障城蒸針仁垂推寸盛聖誠宣専泉洗染善奏窓創装層操蔵臓存尊宅担探誕段暖値宙忠著庁頂潮賃痛展討党糖届難乳認納脳派拝背肺俳班晩否批秘腹奮並陛閉片補暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訳郵優幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論揮

※残りの常用漢字は中学校３年間で習得。

3.2 人名用漢字

特別に人の名付けにのみ使われる字。

(1) 1951年、92字を制定（うち7字は常用漢字に入れられた）

丑丞乃之也亘亥亦亨亮伊匡卯只吾呂哉嘉圭奈宏寅巌巳庄弘弥彦悌敦昌晃晋智暢朋桂桐楠橘欣欽毅浩淳熊爾猪玲琢瑞睦磯祐禄禎稔穣綾惣聡肇胤艶蔦藤蘭虎蝶輔辰郁酉錦鎌靖須馨駒鯉鯛鶴鹿麿亀

※常用漢字に入れられた字：仙尚杉甚磨斉竜(龍)

(2) 1976年、28字追加（120字、うち1字は常用漢字に入れられた)。

佑允冴喬怜旭杏梓梢梨沙渚瑠瞳紗絃絢翠耶芙茜藍那阿隼鮎葵

※常用漢字に入れられた字：悠

(3) 1981年、54字追加、また人名用漢字のうち８字が常用漢字になり削除（166字)。

伍伶侑兢孟峻嵩嶺巴彬惇惟慧斐旦昂李栗楓槙汐洵洸渥瑛瑶璃甫皓眸矩碧笹緋翔脩苑茉莉萌萩蓉蕗虹諒赳迪遥遼霞頌駿鳩鷹

(4) 1990年、118字追加（284字)

伎伽侃倖倭偲冶凌凜凪捺於旺昂晏晟晨暉曙朔凱勁叡叶唄啄奎媛嬉宥崚嵐嵯巽彗彪恕憧拳捷杜柊柚柾栞梧椋椎椰椿楊榛槻樺檀毬汀汰洲湧滉漱澪熙燎燦燿爽玖琳瑚瑳皐眉瞭碩秦稀稜竣笙紬絃綜綸綺耀胡舜芹茄茅莞菖董蒔蒼蓮蕉衿袈裟詢誼諄邑醇采雛鞠颯魁鳳鴻鵬麟黎黛

(5) 1997年、1字追加（285字)

琉

(6) 2004年２月に1字、6月に１字、７月に3字追加（290字)。

曽／獅／瀧毘駕

(7) 同９月、488字追加、また人名用漢字の異体字205字も追加され合計983字（省略)。

(8) 2009年4月30日、2字追加し、985字となる

祷穹

■人名用漢字表（常用漢字表外字およびその許容字体）

丑丞串乃之乎也云亘(亙)些亦亥亨亮仔伊伎伍伽佃佑伶侃侑俄俠俣俐侶倭俺俱倦倖偲僅傭儲允兎兜其冥冴冶凄凌凜(凛)凧凪凰凱函刹劉劫勁勃勾匂勿匡廿卜卯卿厨厩叉叡叢叶只吾呑吻呂哉哨啄唄哩喬喧喰喋嘩嘉嘗噌噂圃圭坐尭(堯)坦埼埴堆堰堺堵塙塞塡壕壬夷奄奈奎套妖娃姪姥娩媛嬉孟宏宋宛宕宥寅寓寵尖尤屑岡峨峻崖崚嵐嵯嵩嶺巖(巖)已巳巴巷巽巾帖幌幡庄庇庚庵廟廻弘弛弥(彌)彗彦彪彬徠忽怜恢恰恕悌惟惚悉惇惹惺惣慧憧憐戊或戚戟戴托按拶拭挨拳捉挺挽掬捲捷捺捻捧掠揃摑摺撒撰撞播撫擢孜敦斑斐斡斧斯於旦旭旺昂昊昏昌昧昴晏晃(晄)晒晋晟晦晨智暉暢曖曙曝曳曽(曾)朋朔杏杖杜李杭杵枕杷枇柑柴柵柿柘柊栃柏柾柚桧(檜)栞桔桂桁栖桐栗梧梗梓梢梛梯桶梶椛梨梁椅棲椎椋椀楯楚楕椿楠楓椰楢楊榎樺榊榛槙(槇)槍槌樫槻樟樋橘樽橙檎檀櫂櫛櫓欣欽歎此殆毅毘毬汀汝汐汎汲沙汰沌沓沫洸洲洵洛浩浬淵淳渚(渚)淀淋渥湘湊湛湧溢滉溜漱漕漣澪濡瀕灘灸灼烏焔焚煌煎煤煉熙熊燕燎燦燭燿爪爽爾牒牙牟牡牽犀狼猪(猪)獅玖玩珂珈珊珀玲琢(琢)琉瑛琥琶琵琳瑚瑞瑶瑳瑠璃瓜瓢瓦甥甫畏畠畢畿疋疏瘦皐皓眉眸睦瞳瞥瞭矩砦砥砧硯碓碗碩碧磐磯祢(禰)祐(祐)禄(祿)禎(禎)祷(禱)禽禾秦秤稀稔稟稜稽穣(穰)穹穿窄窟窪窺竣竪竺竿笈笹笙笠筈筑箕箔箸篇篠簞簾籾粥粟糊紘紗紐絃紬絆絢綺綜綴緋綾綸縞徴繋繍纂纏羚羨翔翠耀而耶耽聡肇肋肘肴胤胡脇脩腔腎膏膳臆臥臼舜舷舵艶芥芹芯芭芙芦苑茄苔苺茅茉茨茸茜莞荻莫莉菅菫菖萄菩萌(萠)萊菱葦葛葵萱葺萩董葡蓋蓑蒔蒐蒼蒲蒙蓉蓮蔭蔣蔦蓬蔓蕎蕨蕉蕃蕪蔽薙蕾蕗藁薩藤藍蘇蘭虎虹蜂蜜蝦蝶螺蟬蟹蠟衿袖袈袴裡裾裟裳襖訊訣註詣詢詮詫誼諏諄誰諒謂諺諦謎讃豹貌貰貼賑赳跨蹄蹟蹴輔輯輿轟辰辻迂迄辿迪迦這逞逗逢遥(遙)遁遡遜遼邑那祁郁鄭酉酎醇醐醒醍醤采釉釘釜釧鋒鋸錦錐錆錫鍋鍵鍬鎧鎌閃閏閤闇阜阪阿陀隈隙隼雀雁雛雫霞靖鞄鞍鞘鞠鞭韓頁頃須頌頓頗頰顛颯餅馨馴馳駕駒駿驍魁魯鮎鯉鯛鰯鱒鱗鳩鳶鳳鴨鴻鵜鵬鶴鷗鷲鷺鷹鹿麒麓麟麿黎黛鼎亀

■常用漢字のうち人名用に許容される字体

亞(亜) 惡(悪) 爲(為) 逸(逸) 榮(栄) 衞(衛) 謁(謁) 圓(円) 緣(縁) 薗(園) 應(応)
櫻(桜) 奧(奥) 橫(横) 溫(温) 價(価) 禍(禍) 悔(悔) 海(海) 壞(壊) 懷(懐) 樂(楽)
渴(渇) 卷(巻) 陷(陥) 寬(寛) 漢(漢) 氣(気) 祈(祈) 器(器) 僞(偽) 戲(戯) 虛(虚)
峽(峡) 狹(狭) 響(響) 曉(暁) 勤(勤) 謹(謹) 駈(駆) 勳(勲) 薰(薫) 惠(恵) 揭(掲)
鷄(鶏) 藝(芸) 擊(撃) 縣(県) 儉(倹) 劍(剣) 險(険) 圈(圏) 檢(検) 顯(顕) 驗(験)
嚴(厳) 廣(広) 恆(恒) 黃(黄) 國(国) 黑(黒) 穀(穀) 碎(砕) 雜(雑) 祉(祉) 視(視)
兒(児) 濕(湿) 實(実) 社(社) 者(者) 煮(煮) 壽(寿) 收(収) 臭(臭) 從(従) 澁(渋)
獸(獣) 縱(縦) 祝(祝) 暑(暑) 署(署) 緒(緒) 諸(諸) 敍(叙) 將(将) 祥(祥) 涉(渉)
燒(焼) 奬(奨) 條(条) 狀(状) 乘(乗) 淨(浄) 剩(剰) 疊(畳) 孃(嬢) 讓(譲) 釀(醸)
神(神) 眞(真) 寢(寝) 愼(慎) 盡(尽) 粹(粋) 醉(酔) 穗(穂) 瀨(瀬) 齊(斉) 靜(静)
攝(摂) 節(節) 專(専) 戰(戦) 纖(繊) 禪(禅) 祖(祖) 壯(壮) 爭(争) 莊(荘) 搜(捜)

巣(巣) 装(装) 僧(僧) 層(層) 騒(騒) 増(増) 憎(憎) 藏(蔵) 贈(贈) 臓(臓) 卽(即)
帶(帯) 滯(滞) 瀧(滝) 單(単) 嘆(嘆) 團(団) 彈(弾) 晝(昼) 鑄(鋳) 著(著) 廳(庁)
徵(徴) 聽(聴) 懲(懲) 鎭(鎮) 轉(転) 傳(伝) 都(都) 嶋(島) 燈(灯) 盜(盗) 稻(稲)
德(徳) 突(突) 難(難) 拜(拝) 盃(杯) 賣(売) 梅(梅) 髪(髪) 抜(抜) 繋(繋) 晩(晩)
卑(卑) 祕(秘) 碑(碑) 賓(賓) 敏(敏) 冨(富) 侮(侮) 福(福) 拂(払) 佛(仏) 勉(勉)
歩(歩) 峯(峰) 墨(墨) 飜(翻) 毎(毎) 萬(万) 默(黙) 埜(野) 藥(薬) 與(与) 搖(揺)
様(様) 謠(謡) 來(来) 賴(頼) 覽(覧) 欄(欄) 龍(竜) 虜(虜) 凉(涼) 綠(緑) 淚(涙)
壘(塁) 類(類) 禮(礼) 暦(暦) 歷(歴) 練(練) 錬(錬) 郎(郎) 朗(朗) 廊(廊) 錄(録)

3.3 新聞漢字

常用漢字から11字を除外、45字を増やした。ただし大部分が改定常用漢字表に採用されたため、現在では以下の２字のみ。

磯　いそ(磯釣り)　[キ]　哨　ショウ(哨戒・歩哨)

3.4 日本語能力試験１級水準の漢字

常用漢字から増減した2100字。

(1) 改定常用漢字表に入った字（56字)
挨闇椅俺宛鍋瓦崖蓋釜裾脇頬僅稽詣頃隙鍵股喉尻沙拶餌膝叱呪腫袖憧芯腎誰狙爪曾爽汰諦旦肘箸枕貼瞳頓丼匂眉謎湧嵐悍呂籠
(2) その他（54字)
於嘩霞咳筈其嬉稀嘘睨喧呟壷股垢叩噛忽惚撒只匙此蒔覗髭這濡繍茹梢炒醤賑貰揃噌蘇噂殆蛋馳紐蝶吊剃吠撫鞄勿尤溜或碗
(3)日本語能力試験１級の出題範囲から除外されている常用漢字（14字)
翁嚇虞侯爵且薪帥但朕奴婆畝隷

3.5 コンピュータにおける漢字

(1) 旧 JIS 漢字：1978年に日本規格協会から出された6802字
「第1水準」漢字2965字、48～83区に「第2水準」漢字3384字
(2) 新 JIS 漢字：1983年、旧 JIS 漢字を改訂。
「第2水準」漢字3388字（4字追加)、1990年に2字追加して3390字
(3) JIS 補助漢字：1990年に発表、JIS 漢字に含まれない5801字
(4) Unicode：1993年にコンピュータにおける新しい文字処理コード国際規格として発表、日本では1995年に漢字表が出される（20902字)

(5) 現在用いられている JIS 漢字

第１水準2965字（常用漢字、人名用漢字、地名、その他よく用いられる漢字)

第２水準3390字（第１水準に準じて用いられる漢字)

第３水準1259字（字体変更のあった字、人名用漢字の異体字、旧漢字、地名、部首等)

第4水準2436字

４　漢字ってどのくらいあるの？？

漢字はアルファベット・(現在の）仮名・ハングルなどと違い、新たな文字をいくらでも作ることができ、また字画のわずかな違いで別な文字とみなすこともできるので、正確な字数ははっきりしません。一応の基準として以下の辞書に収録される文字数を挙げます。

『説文解字』（100、漢 許慎 撰）見出し字9353字、重文（異体字）1163字

『玉篇』（梁 顧野王 編）16917字

『大広益会玉篇』（宋、玉篇の増補改訂版）28989字

『字彙』（1615、明 梅膺祚 編）33179字

『康熙字典』（1716、清 康熙帝勅撰）49030字

『大漢和辞典』（1960、諸橋轍次 編、2000年修訂第２版）49964字→51109字

『中華字海』（1994年、冷玉龍 編）86658字（！）

コラム　表外音訓のはなし

「表外音訓」とは、常用漢字表には載っていないが、実際には雑誌・小説などで広く使われている読み方のことです。多くは歴史用語や文法的な言葉ですが、中にはかなり一般的に用いられているものもあります。

■表外訓の例（*は新聞等で用いられるもの）

敢えて（あえて）
証す（あかす）*
崇める（あがめる）
与る（あずかる）
篤い（あつい）
予め（あらかじめ）
主（あるじ）
活かす（いかす）
活きる（いきる）
何れ（いずれ）
愛しい（いとしい）
未だ（いまだ）
疑る（うたぐる）
宴（うたげ）
家（うち）
旨い（うまい）
概ね（おおむね）
想う（おもう）
凡そ（およそ）
却って（かえって）
屈む（かがむ）
微か（かすか）
被る（かぶる）
括る（くくる）
毎（ごと）
恐い（こわい）
如し（ごとし）
射す（さす）→日が射す
直（じか）
然も（しかも）
暫く（しばらく）
即ち（すなわち）
類（たぐい）
企む（たくらむ）
称える（たたえる）
唯（ただ）
達（たち）→私達
経つ（たつ）
為（ため）
貯める（ためる）
因みに（ちなみに）
遂に（ついに）
衝く（つく）
辛い（つらい）
外（と）→外様
退く（どく・のく）
退ける（どける・のける）
鶏（とり）*
虜（とりこ）
摂る（とる）
盗る（とる）
録る（とる）
準える（なぞらえる）
尚（なお）
等（など・ら）
密かに（ひそかに）
先ず（まず）
寧ろ（むしろ）
空しい（むなしい）
愛でる（めでる）
以て（もって）
刃（やいば）
輩（やから）
易い（やすい）
奴（やつ・やっこ）
止む（やむ）
止める（やめる）
漸く（ようやく）
依る（よる）
慶ぶ（よろこぶ）
宜しい（よろしい）
判る（わかる）
解る（わかる）
弁える（わきまえる）

■表外音の例

衣（エ）→衣紋
壊（エ）→壊死
隠（オン）→隠密
個（カ）*→個所
怪（ケ）→怪我
公（ク）→公家
荘（ショウ）→荘園
清（シン）→日清戦争
寿（ス）→寿司
途（ズ）→一途・三途
駄（タ）→下駄・雪駄
刃（ニン）→刃傷
苗（ミョウ）→苗字
明（ミン）→明朝体

■熟字訓

熟語だが特別な読み方をするもの。

ここには「常用漢字表付表」にないものをいくつか集めました。

生憎（あいにく）
紫陽花（あじさい）
灰汁（あく）
欠伸（あくび）
明後日（あさって）
十六夜（いざよい）
無花果（いちじく）
海豚（いるか）
団扇（うちわ）
感染る（うつる）
独活（うど）
海老（えび）
美味しい（おいしい）
可笑しい（おかしい）
女将（おかみ）
一昨日（おととい）
女郎花（おみなえし）
女形（おやま）
案山子（かかし）
陽炎（かげろう）
南瓜（かぼちゃ）
木耳（きくらげ）
水鶏（くいな）
水母（くらげ）
海月（くらげ）
山茶花（さざんか）
老舗（しにせ）
流石（さすが）
百日紅（さるすべり）
秋刀魚（さんま）
西瓜（すいか）
角力（すもう）
台詞（せりふ）
科白（せりふ）
章魚（たこ）
束子（たわし）
提灯（ちょうちん）
一寸（ちょっと）
土筆（つくし）
九十九（つくも）
九十九折（つづらおり）
心太（ところてん）
永遠（とわ）
狭間（はざま）
流行る（はやる）
雲雀（ひばり）
河豚（ふぐ）
相応しい（ふさわしい）
故郷（ふるさと）
糸瓜（へちま）
木瓜（ぼけ）
不如帰（ほととぎす）
時鳥（ほととぎす）
微笑(み)（ほほえみ）
微笑む（ほほえむ）
雪洞（ぼんぼり）
真似（まね）
百足（むかで）
土竜（もぐら）
百舌鳥（もず）
香具師（やし）
玄孫（やしゃご）
流鏑馬（やぶさめ）
昨夜（ゆうべ）
百合（ゆり）
早稲（わせ）
早生（わせ）

参　部首の紹介（&書き方のポイント）

・代表的なもののみです。意味のつながりを持たない便宜的分類の部首は省きました。
・大きい字は教育漢字、( )内の字はその部首と同じ要素を持つが違う部首の字です。

1　へん(偏)：漢字の左側の要素。へんを部首にする漢字が一番多い。

1.1 にんべん（亻）：人の動作や状態などに関係する字を作る。

休何作体係仕使住他代倍位億健候借信側仲低停伝働付便例仮価件個似修像任備俵仏保供傷仁値俳優(化)依偉儀仰傾伺侵僧俗倒傍佳偶倹債催侍伸促伐伴伏倣偽傑侯佐儒俊償仙但偵伯侮併偏俸僕僚倫俺伎僅傲侶

ポイント：カタカナの「イ」を細くした形。

☆にんべん以外の「人部」に属する常用漢字：会今倉令(全)介企傘

1.2 ぎょうにんべん（彳）：往来・交通に関係する字を作る。

後待役径徒得往徳復従律御征徴彼微徐循徹

ポイント：上の「ノ」は少し短めに。

1.3 てへん（扌）：手や手を使った動作に関係する字を作る。

指持拾打投折技採授招接損提拡揮捨推操担探拝批握扱援押拠掘抗振拓抵摘拍抜搬描払捕抱掛換掲携拘控搾撮擦摂措掃択抽排揚揺擁抑拐括擬拒挟拷抄据拙捜挿挑撒搭把披扶撲抹挨挫拶拭捉捗捻拉

ポイント：２画目（亅）は必ずはねる。
　　３画目は下から上へはね上げる。(※「オ」は３画目が左払いなので注意)

☆てへん以外の「手部」に属する常用漢字：挙承撃掌摩拳摯/才

1.4 あしへん（⻊）：足や足を使った動作に関係する字を作る。

路距跡跳踏躍踊践蹴踪

ポイント：下の部分は「止」の字形、最終画を上にはね上げる。

1.5 つちへん（土）：土や土地などに関係する字を作る。

場地坂塩境均増域城壊堤塔坊塊坑壇墳埋垣堪壌塚坪培塀堀埼堆填

ポイント：３画目は下から上へはね上げる。

☆つちへん以外の「土部」に属する常用漢字：型堂圧基在墓垂壁塑墜塗墨塾塑堕塁/報執

1.6 たまへん（王）：「玉」に同じ、宝玉に関係する字を作る。

※「王」とは形が酷似するが無関係。

理球現班環珍珠玩斑璃瑠

ポイント：筆順は上から横→縦→横→横、4画目は下から上へはね上げる。

☆たまへん以外の「玉部」に属する常用漢字：璧弄/王琴

1.7 きへん（木）：木の種類や木で作ったものなどを表す。

校村林横橋根植柱板様機械極材札標松梅桜格検構枝株机権樹棒枚模(相)朽枯桃杯柄欄概棋楼核棺桟枢杉析栓槽棚棟朴柳枠椅楷桁梗柵柿枕椎栃

ポイント：横線は左と右で２：１ぐらいの比率になるようにする。

４画目（本来は右払いになる線）は点（丶）にする。

☆きへん以外の「木部」に属する常用漢字：森本楽東来業案栄果束末未査条染朱柔架棄桑某栽梨鬱采麓

1.8 のぎへん（禾）：穀物に関係のある字を作る。

科秋秒種積移税程穀私秘(利和)稿称稲穏穫穂稚稼租秩稽

ポイント：「きへん」に同じ。

☆のぎへん以外の「禾部」に属する常用漢字：秀

1.9 こめへん（米）：米穀に関する字。

粉精糖粒粋粗粘糧粧

ポイント：「きへん」に同じ。

1.10 けものへん（犭）：犬、また動物の種類、動物に関係する字を作る。

独犯獲狂狭狩猛獄猟猿猫猶狙

ポイント：３画目は左払い（ノ）にする。

☆けものへん以外の「犬部」に属する常用漢字：状獣献

1.11 うしへん（牜）：牛に関係のある文字を作る。

物特牧犠牲

ポイント：４画目は下から上へはね上げる。

1.12 しめすへん（礻）：「示」の変化した形（現在の形は筆写体から）。
神祇・宗教や運命に関係する字を作る。

社神福礼祝祖祈祉禍祥禅

ポイント：カタカナの「ネ」を細くした形。

☆しめすへん以外の「示部」に属する常用漢字：祭票禁(斎奈)

1.13 ころもへん（衤）：「衣」の変化した形、衣服に関係する字を作る。

複補(初)被裸褐襟裕裾袖

ポイント：しめすへんに似ているが、「丶」の右上に短い「ノ」があるのに注意。

☆ころもへん以外の「衣部」に属する常用漢字：表製裁装裏襲衰袋裂衷褒

1.14 りっしんべん（忄）：「心」の変化した形。感情や感覚に関する字を作る。
快慣情性憶恒惨慎悩怖忙悦怪悔慨悟慌恨惜憎懐憾惰悼憤愉惧憬憧慄

ポイント：まず点２つを打ってから縦線を書く。(「小」とは書き順が違うことに注意)
※りっしんべん以外の「心部」に属する常用漢字は4.3参照。

1.15 いとへん（糸）：繊維・色彩などに関する字を作る。
絵細紙線組級終緑練紀給結続約経織績絶総統編綿絹紅縦縮純納維緯縁繰継紹網紋絡緩絞綱紺繕締縛紛縫糾緒縄紳繊紡綻緻

ポイント：「く」「ム」は折れているところを離さないで書く。
　　下の「小」は点３つで書いても良い（許容字体）

☆いとへん以外の「糸部」に属する常用漢字：素系紫繁緊繭索累

1.16 さんずい（氵）：「水」の変化した形。水に関係する字を作る。
海活汽池泳温漢決湖港消深注湯波油洋流泣漁治清浅法満浴液演河潔減混準測沿激源済洗潮派(酒)汚汗況沼浸沢濁淡沖澄沈滴添渡濃泊浜浮漫溶涙滑湿潤瀬潜滞滝泌漂没滅濫浪漏湾渦涯潟渇渓江洪溝滋漆汁渋淑渉浄津漸濯漬泥洞漠沸浦泡涼淫潰沙汰溺氾汎湧沃　※「酒」の正式な部首は「酉」。

ポイント：カタカナの「シ」を細長くした形。３画目は左下から右上へ跳ね上げる。

☆さんずい以外の「水部」に属する常用漢字：氷永泉

※「したみず（氺）」という形を取る字もある。：求泰

1.17 にすい（冫）：氷に関係する字を作る。

冷凍凝准凄冶

ポイント：カタカナの「ン」を細長くした形。２画目は左下から右上へ跳ね上げる。

※にすい以外の「冫部」に属する常用漢字：冬（下部の２点は「ン」でもよい）

1.18 こざとへん（阝）：「阜」の変化した形。土が重なって段になった形。
丘など、地形・築土に関係する字を作る。

院階陽隊陸険限際防降除障陛陰隠陣隣隔随阻陳陶陪隆陵陥隅附隙阪

ポイント：まず「フ」から書く。縦線は３画目。

1.19 ごんべん（言）：言語行動に関係する字を作る。

記計語読話詩談調課議訓試説許護講識謝証設評誤詞誌諸誠誕討認訪訳論詰誇詳訴謡詠該諮譲請託諾訂謀誘謁謹謙詐訟詔診譜諭諧詣誰詮諦訃謎

ポイント：最初の点は短い横棒でもいい。２画目は長くする。

☆ごんべん以外の「言部」に属する常用漢字：警誉誓謄

1.20 ひへん（火）：火に関係する字を作る。

焼灯燃煙燥爆炊炉煩

ポイント：最後の右払いは点にする。

☆ひへん以外の「火部」に属する常用漢字：炭災灰炎

※4.1「れんが」も参照。

1.21 おんなへん（女）：女性、また人間の属性や性格に関する字を作る。

姉妹始好婦婚姓奴妙娘嫁娯如嬢婿姫妨姻嫌妊娠嫡媒妃媛嫉妬妖

ポイント：書き順は「くノ一」、横画は払い上げる。

☆おんなへん以外の「女部」に属する常用漢字：委妻姿威婆妥妄

1.22 かねへん（金）：金属や金属製品に関係する字を作る。

銀鉄鏡録鉱銭銅鋼針鋭鉛鑑鎖鈍錯鐘錠鍛鋳鎮錬銃釣鉢銘鈴鍋錦鍵鎌錮

ポイント：２画目の右払いは短くして「丶」のように止める。
最終画は左下から右上に払い上げる。

☆かねへん以外の「金部」に属する常用漢字：釜

1.23 ふねへん（舟）：船舶に関係する字を作る。

船航般艦艇舶舷

ポイント：真ん中の縦線は点にしない。横画は払い上げる。

1.24 しょくへん（飠）：飲食に関係する字を作る。

飲館飯飼飾飢餓飽餌餅

ポイント：３画目の点は短い横線でも縦線でもよい。左払いにはしない。最終画は点。
※改訂常用漢字表にはへんが旧字体の「𠂤」となっている字があるが、手書きでは「飠」の形が伝統的に使われており、また書きやすいので、新字体の形「飠」で書く。

☆しょくへん以外の「食部」に属する常用漢字：養

1.25 いしへん（石）：岩石に関する字。

研確破砂磁砲硬礎碑砕硝礁硫/碁磨

1.26 くち・くちへん（口）：言語・呼吸に関する字が多い。

味唱吸呼叫咲吹嘆吐噴喚喫嘱嚇喝吟唆唯咽嗅喉叱呪唾嘲唄哺喩/右名古合台同員君向号商品命問和各喜器告史司周可句后善否含召唐哀吉啓哲吏呉嗣唇喪呈呂

1.27 ひ・ひへん（日）：太陽・時間・光に関係する字が多い。

時晴明曜暗昭昨映暖晩暇暁曖旺昧

/早春星昼暑昔景易旧暴暮旨旬是曇普暦暫昇晶昆旦

※次の字は「ひらび・いわく（曰)」で別の部首。

書曲最更替冒曹曽

1.28 め・めへん（目）：目に関係する字。

眼瞬眠睡眺瞳睦瞭

/直県真相省看(見)盾督盲眉

1.29 にくづき（肉・月）：肉体・内臓に関係する字を作る。

腸脈肥胸臓脳肺腹脚脂脱胴肪腰腕肝胎胆胞膨膜肢肌臆脇股膝腫腺膳肘(豚)

/育胃能背(骨)肩腐膚脅肯肖腎脊

※次の字は「つき・つきへん（月)」で別の部首。

朝期有望朗/服朕

1.30 かい・かいへん（貝）：財宝・経済に関する字を作る。

なお、生物の貝は表さない。

貯財贈販賦賊購賜賠賄貼賭賂

/買負貨賞費賀賛資質責貸貧貿貴賃貫賢貢貞賓貪

1.31 くるま・くるまへん（車）：車両に関する字を作る。

軽転輪輸較軒軌軸轄軟(斬)/軍載輩

1.32 ひよみのとり・とりへん（酉）：酒・醸造に関する字を作る。

配酸酵酔酷酢酌酬醜醸酪醒酎/酒

1.33 うまへん（馬）：馬に関する字。

駅験駆騒騎駐駄駒/驚騰

1.34 やまへん（山）：山岳に関する字。

峠峰岐峡崎岬/岩岸島岳崩崇崖嵐

1.35 むしへん（虫）：昆虫・小動物に関する字。

蚊蛇虹蜂/蜜

２　つくり（旁）：漢字の右側の部分。部首になるものは少ない。

2.1 りっとう（刂）：刀・刃物に関する字を作る。

前列刷副別利刊制則判割劇刻創刈剣剤刺到刑剛剰剖剣剥

ポイント：２画目（亅）は最後必ず左上にはねる。

☆りっとう以外の「刀部」に属する常用漢字：切分初券刃

2.2 ぼくにょう（攵）：「攴」（手に棒を持って打つ形）の変形。
動作を表す字を作る。「のぶん」とも言う。

教数整放改救散敗故政敵敬攻敏敷敢(致赦)

ポイント：３画目の左払いは横線の中間から書く。
横線と左払いは続けて書かない（「夂」は別な部首）。

2.3 おおざと（阝）：「邑」（村・集落）の変形。
集落・行政区画に関係する字を作る。

都部郡郷郵郎郭郊邪邦邸那

ポイント：「こざとへん」に同じ。

2.4 あくび（欠）：字はあくびをしている形。呼吸・感情に関する字。

歌次欲(飲)歓欧欺款

2.5 ほこづくり（殳）：「るまた」とも。「攴」に類似。
激しい動作を示す字を作る。

殺段(役投)殿殴殻毀(般)

2.6 ちから（力）：力仕事・労働などに関係する字。

助動勉功効勤勧勘励劾勲勅勃/加勝努勇労勢務劣募

2.7 おおがい（頁）：頭部に関する字を作る。

顔頭題願順類額預領頂項顧頑顕頒頻顎頬頃須頓(煩)

2.8 ふるとり（隹）：鳥に関する字が多い。

雑難雅雌雄離/集雇隻

※とり（鳥）とは別の部首。「隹」との使い分けははっきりしない。

鳴鶏鶴

3　かんむり（冠）：漢字の上の部分。へんに次いで部首の種類が多い。

3.1 うかんむり（宀）：建物や家屋に関する字を作る。

家室安寒客宮実守宿定害完官察寄富容宇宙宗宣宝密寂寝宴審寡寛宜宰宵寧寮宛塞

ポイント：上の点は短い縦棒でも良い。

3.2 くさかんむり（艹）：「艸」の変形、植物に関する字を作る。

花草茶荷苦薬葉落英芽芸菜若蒸蔵著芋菓荒芝薪蓄薄茂華菊葬藩苗芳菌薫茎薦荘藻萎苛蓋葛茨芯藤蔽蔑藍

ポイント：カタカナの「サ」のように書き、真ん中は離さない。

3.3 たけかんむり（竹）：竹および竹製品に関する字を作る。

算答第笛等箱筆管笑節築簡筋策箇範籍篤符簿筒箋箸籠

ポイント：カタカナの「ケ」を２つ並べたような形だが、左側は３画目が点「丶」、右側はカタカナと同じく左払い。

3.4 あめかんむり（雨）：天候に関する字を作る。

雲雪電需震霧雷露零霊霜雰

ポイント：４つの点の配置に注意。短い横線にする必要はない。

3.5 あなかんむり（穴）：洞穴、空間に関する字を作る。

空究窓突窒窮窃窯窟

ポイント：５画目（右曲げ）は最後を跳ねなくてもいい。

3.6 あみがしら（网・罒）：網の形。網・刑罰などに関する字。

置罪署(買)罰罷羅罵

４　あし（脚）：漢字の下の部分。

4.1 れんが（灬）：「火」の変形、火を使う行為・調理等に関する字を作る。

点照然熱無熟(黒蒸) 為煮烈焦煎熊

ポイント：４つの点の向きに注意。

4.2 ひとあし（儿）：「人」が下にある形。意味は「にんべん」に同じ。

先兄元光児兆党(見)克免充(虎)

ポイント：最終画は縦→カーブ→横→上向きに「はね」を作る。

4.3 こころ（心）：「心」が下にある形。意味は「りっしんべん」に同じ。

思悪意感急想息悲念応恩志態憲忠忘恐恵怒慮恋惑

慰忌愚憩慈怠患懸懇愁懲忍悠怨恣/愛必憂慶

※「したごころ（小)」という形を取る字もある：慕恭

５　かまえ（構)：漢字の外側の部分。

5.1 くにがまえ（口)：領域に関する字を作る。

園国図囲固因団困圏囚/四回(この２字は口部だが形は「ロ」)

ポイント：左・上→右を最初に書き、下は中を書いてから最後に書く。

5.2 もんがまえ（門)：門扉に関する字を作る。

間開関閣閉(問聞)闘閲閑閥闇

ポイント：先に「門」を書く。書き順は「日」と同じ。

5.3 ほこがまえ（戈)：武器・戦闘に関する字を作る。

成戦我戒戯戚

ポイント：戈の２画目（右斜めはね）に注意。３画目（左払い）を書き忘れない。

5.4 ぎょうがまえ（行)：交通・街路に関する字を作る。

街衛術衝衡

ポイント：左側はぎょうにんべん（彳）と同じ。中心部はへんを書くときと同じ。
（右払いを点にする、横画の１つをはね上げるなど)。

６　たれ（垂)：漢字の上～左側の部分。へんとかんむりの中間。

6.1 まだれ（广)：家屋に関する字を作る。

広店庫庭度康底府序座庁床廉廊庶廃庸(応唐席麻腐慶魔摩鹿)

6.2 やまいだれ（疒）：病気に関する字を作る。

病痛疲療疾痘癖疫症痴癒痢痕痩瘍

ポイント：まずまだれ（广）を書いてからにすい（冫）を書く。

6.3 しかばね（尸）：①死体②尻③重なったものを表す。

屋局居属尺層展屈尾尿尼履尻

7　にょう（繞）：漢字の左～下の連続する部分。

7.1 しんにゅう（辶）：「⻌＜彳＋止」で道路・通行を表す字を作る。
「しんにょう」とも言う。

遠近週通道運進送速追返遊選達辺連過逆述造退適迷遺違迎遣込遅遡遜

ポイント：最後に書く。
3 のような形の部分は続けて書き、最後に右払い。
形の取り方が難しいので、特に注意すること。
えんにょう（廴）や「之」のように書いてはいけない。
※「辶」の点は手書き（楷書体）の場合、１つだけ書くのが通例。
２点は本来明朝体の形（辶）、実は楷書体の点の下の横棒が２つ目の点に対応する。

7.2 えんにょう（廴）：「彳」の変形。

建延廷

ポイント：最後に書く。しんにゅうと混同しない。

7.3 そうにょう（走）：走行に関する字を作る。

起超越趣赴

ポイント：最初に書く。

肆　日本独自の漢字の発展

1　国字（日本製の漢字）

漢字はもともと中国のものです。しかし日本で使っているうちに、中国にはないが日本にはあるもの、中国でどの漢字になるのかわかりにくいもの、また新しくできたものなどを書くため、日本で独自に作った字が沢山あります。これらを「国字」あるいは「和製漢字」などと呼びます。

「国字」にあたるものは韓国にも「畓」「媤」「乭」などたくさんあります。またベトナムでは、ベトナム語そのものを表すための字として「字喃（チュノム）」が作られました。更に、「働」「鱈」など、日本製の字が中国や韓国に逆輸入された例もあります。

(1) 常用漢字表にあるもの

働	ドウ・はたら(く)	「人＋動」。
塀	ヘイ	遮るという意味の「屏」に、土でできているので「土＋屏」。
峠	とうげ	山道をのぼりつめて下りにかかる所なので「山＋上＋下」。
枠	わく	字源不明。
畑	はたけ・はた	水田に対して水がないので「火＋田」。
込	こ(む・める)	「辶＋入」で、進入するという意味の字にした。
匂	にお(い・う)	韻の異体字「韵」の旁の変形。意味も聴覚から嗅覚へ。
栃	とち	「木＋万（十千で「とち」…）」の変形とも、「橅」の略字とも。
腺	セン	「肉＋泉」で分泌器官を表す。 江戸時代の医学者、宇田川玄真の造字（他に「膵」なども）。

※国字と言われているが実は国字ではないもの

匁	(セン)・もんめ	「文＋メ」と言われているが、実は「銭」のつくり「戔」の省略形。中国で昔から類似の形が「銭」の略字として使われた。
搾	サク・しぼ(る)	実は「榨(サク)」の異体字。「榨菜（ザーサイ）」を日本では「搾菜」とも書く。

(2) JIS 第1水準までに入っている国字（*の付いた字は国字ではないという説もある）

凧	たこ	柾*	まさ・まさき	笹	ささ
凪	なぎ・な(ぐ)	椙	すぎ	粁	キロメートル
喰*	く(う・らう)	椛	もみじ	粂	くめ
噸	トン	榊	さかき	籾	もみ
噺	はなし	樫	かし	粍	ミリメートル
杢	もく	畠*	はた・はたけ	糎	センチメートル
枡	つが・とが	硲	はざま	辻	つじ

鋲	ビョウ	鰯	いわし	鳰	にお
鑓	やり	鱈*	セツ・たら	麿	まろ
雫*	ダ・しずく	鴫	しぎ		

(3) JIS 第2水準までに入っている国字

俤	おもかげ	簗*	やな	遖	あっぱれ
俥	くるま	籵	デカメートル	錺*	かざり
凩	こがらし	粨	ヘクトメートル	錵*	にえ
呎	フィート	糀	こうじ	錻	ブ・ブリキ
嬶*	かか・かかあ	綛	かすり・かせ	鎹	かすがい
弖*	て	縅	おどし・おど(す)	閊	つか(える)
怺	こら(える)	繧	ウン	鞆	とも
扨	さて	纐	コウ・しぼ(り)・しぼりぞ(め)	鞐	こはぜ
杣	そま	聢	しか(と)	颪	おろし
枡	ます	膵	スイ	饂	ウン
梺	ふもと	艝	そり	鮖	かじか
椚	くぬぎ	萢	やち・やつ	鮗	このしろ
毟	むし(る)	蓙	ござ	鮟*	アン
燵	タツ	蚫*	ホウ・あわび	鮴	ごり
瓧	デカグラム	蛯	えび	鯏	あさり・うぐい
瓩	キログラム	袰	ほろ	鯑	かずのこ
瓲*	トン	裃	かみしも	鯒	こち
瓰	デシグラム	裄	ゆき	鯲	どじょう
瓱	ミリグラム	褄	つま	鯱	コ・しゃち・しゃちほこ
瓸	ヘクトグラム	襷	たすき	鯰	ネン・なまず
甅	センチグラム	諚	ジョウ・おきて・おお(せ)	鰰	はたはた
癪	シャク	躾	しつけ	鱇	コウ
竍	デカリットル	軈	やが(て)	鱚	きす
竏	キロリットル	轌	そり	鵆	ちどり
竕	デシリットル	辷	すべ(る)	鵤	いかる・いかるが
竓	ミリリットル	迚	とて・とて(も)	鶫	つぐみ
竡	ヘクトリットル	逧	さこ		
竰	センチリットル				
簓	セン・ささら				

2　漢字と仮名のはなし

2.1万葉仮名

まだ仮名がなかった時代、日本語を書くには漢字を使うしかありませんでした。そこで、漢字の音や訓を使って、日本語を書く工夫がされました。特に漢字の音（ときには訓）を、意味を無視して使ったものを「万葉仮名」と呼びます。

万葉仮名の例：

①漢字だけで助詞や送り仮名がないもの（変体漢文に近い？）

「春楊葛山発雲立座妹念」(万葉集巻11)

(春やなぎ葛城山に立つ雲の立ちてもゐても妹をしそ思ふ)

助詞を表記せず、すべて具体的意味を持つ漢字だけで表記

②助詞や送り仮名などを万葉仮名で書いたもの（漢字仮名混じり文？）

「春過而夏来良之白妙能衣乾有天之香来山」（万葉集巻１、持統天皇）

(春過ぎて夏来るらし白妙の衣干したり天の香具山)

「而・之」：助詞などを漢文の助字で表記

「良之・能」：助詞などを音で表記

「香来(山)」：固有名詞を訓で表記

③すべて音を使った万葉仮名で書いたもの（平仮名文・和文の源流）

「夜久毛多都伊豆毛夜幣賀岐都麻碁微爾

夜幣賀岐都久流曾能夜幣賀岐袁」（古事記上巻、須佐之男命）

(八雲立つ出雲八重垣妻籠みに八重垣作るその八重垣を)

すべて漢字音、１字で１音を表記

※おもしろい・難しい万葉仮名（戯書）

山上復有山（いで、山/山→出）　十六（しし、4×4）八十一（くく、9×9)

馬聲（い、鳴き声）蜂音（ぶ、羽音）牛鳴（む、ﾓｰ）喚鶏（つつ、呼び声ﾄｰｯﾄｯﾄ)

五十戸（さと、行政単位）　青頭鶏（かも、頭が青い鳥）　少熱（ぬる、ぬるい）

折木四（かり、욪놀이の原型「樗蒲(ちょぼ)」の日本での古い呼び方)

三伏一向（つく、욪놀이の도?)　一伏三向（ころ、욪놀이の걸?)

2.2 かなの字源

平仮名も片仮名も漢字を省略して作られた音節文字ですが、平仮名は漢字の草書体がもとになっているのに対して、片仮名は漢字の一部を取って作られています。

■ひらがなの字源

あ(安)	い(以)	う(宇)	え(衣)	お(於)
か(加)	き(幾)	く(久)	け(計)	こ(己)
さ(左)	し(之)	す(寸)	せ(世)	そ(曾)
た(太)	ち(知)	つ(州)	て(天)	と(止)
な(奈)	に(仁)	ぬ(奴)	ね(禰)	の(乃)
は(波)	ひ(比)	ふ(不)	へ(部)	ほ(保)
ま(末)	み(美)	む(武)	め(女)	も(毛)
や(也)		ゆ(由)		よ(与)
ら(良)	り(利)	る(留)	れ(禮)	ろ(呂)
わ(和)	ゐ(爲)		ゑ(恵)	を(遠)
ん(无)				

■カタカナの字源

ア(阿偏)	イ(伊偏)	ウ(宇冠)	エ(江旁)	オ(於 偏)
カ(加偏)	キ(幾 初画)	ク(久初画)	ケ(介省画)	コ(己初画)
サ(散初画)	シ(之変形)	ス(須終画)	セ(世 変形)	ソ(曽初画)
タ(多半)	チ(千)	ツ(州3点)	テ(天初画)	ト(止初画)
ナ(奈初画)	ニ(二)	ヌ(奴旁)	ネ(祢偏)	ノ(乃初画)
ハ(八)	ヒ(比旁)	フ(不初画)	ヘ(部)	ホ(保終画)
マ(末 初画)	ミ(三)	ム(牟初画)	メ(女下部変形)	モ(毛 変形)
ヤ(也 変形)		ユ(由終画変形)		ヨ(與右部)
ラ(良初画)	リ(利旁)	ル(流終画)	レ(礼終画変形)	ロ(呂初画)
ワ(和 旁?)	ヰ(井 変形)		ヱ(恵 下部?)	ヲ(乎初画変形)
ン(尓初画変形?)				

2.3 変体仮名

平仮名・片仮名は多くの漢字をもとに作られたので、同じ音節に何種類かの文字がありました。これらのうち難しいものはだんだん使われなくなりましたが、簡単なものは後までずっと使い続けられました。

1900年（明治33年）の小学校令施行規則改正により、仮名の字体は１つに統一され、それ以降は標準とされた仮名以外を「変体仮名」と呼ぶようになりました。

今でも、店の看板などで使用されることがあります。

■主な変体仮名（ひらがなのみ）

い：伊(伊)　ろ：路(路)　は：ち(者) 盤(盤) 八(八)

に：尓 尓(爾尓) 耳(耳) 二(二)　ほ：保(保) 本(本)　へ：遍(遍)

と：登(登)　ち：千(千) 遲(遲)　り：里(里)　ぬ：怒(怒)

る：累(累) 流(流) 類(類)　を：越(越) 乎(乎)　わ：王(王)

か：可(可) 閑(閑)　よ：与(與)　た：多 多(多) 堂(堂)　れ：連(連)

そ：曾(曾) 楚(楚) 所(所)　つ：徒(徒) 津(津) 都(都)　ね：年(年)

な：奈(奈) 那(那)　ら：羅(羅)　む：牟(牟) 無(無)　う：有(有)

ゐ：井(井)　の：能(能) 農(農)　お：於(於)　く：具(具)

や：屋(屋)　ま：末(末) 万(万) 満(満)

け：介(介) 希(希) 氣(氣) 遣(遣)　ふ：婦(婦) 布(布)

こ：古(古) 許(許)　え：江(江)　て：弖(弖) 亭(亭)　あ：阿(阿)

さ：佐(佐) 散(散)　き：支(支) 起(起)　ゆ：遊(遊)

め：免(免)　み：三(三)　し：志(志)　ゑ：衛(衛)

ひ：飛(飛) 悲(悲)　も：毛(毛) 茂(茂)　せ：世(世) 勢(勢)

す：須(須) 春(春) 數(數) 壽(壽)

コラム　漢文訓読のはなし

日本語では、漢文を古典日本語として読む「漢文訓読」という方法が上代から使われています。これは漢字の右下隅に送り仮名（活用語尾・助詞・助動詞など）を付け、また左下隅に字の順番を逆転させる「レ点」、大きい数字のところまで戻って読む「一二点」といった「返り点」を付けることにより、日本語風の文章として漢文を読む方法です。新羅にも似たような習慣があったようです。

漢文（『訓民正音』）：

國之語音異乎中國與文字不相流通故愚民有所欲言而終不得伸其情者多矣

訓点（本来は縦書き）：

國之語音、異ナリ二乎中國ニ一、與二文字一不二相ヒ流通セ一、故ニ愚民有レレドモ所レ欲スルレ言ハントト、而終ニ不ルレ得レ伸ブルヲ二其ノ情ヲ一者多シ矣。

訓読：

國の語音、中國に異なり、文字と相ひ流通せず、故に愚民言はんと欲する所有れども、終に其の情を伸ぶるを得ざる者多し。

現代日本語訳：

我が国の言語は中国と異なっていて、（中国の言語・文字である）漢文・漢字とは互いに通じず、それゆえ愚かな（＝唯一の書き言葉だった漢文の素養がない）民衆は言いたいことがあっても、結局その気持ちを（文章で）述べられない者が多い。

懸吐：

國之語音·이 異乎中國·ᄒᆞ·야 與文字·로不相流通ᄒᆞᆯ ·씨 故愚民·이 有所欲言·ᄒᆞ야·도 而終不得伸其情者ㅣ 多矣:잉·라

諺解：

나·랏 :말ᄊᆞᆷ·미 中國(듕·귁)·에 달·아 文字(문·쫑)·와·로 서르 ᄉᆞᄆᆞᆺ·디 아·니 ᄒᆞᆯ·씨 이런 젼·ᄎᆞ·로 어·린 百姓(·빅·셩)·이 니르·고·져 ·홇 ·배 이·셔·도 ᄆᆞᄎᆞᆷ:내 제 ·ᄠᅳ·들 시·러 펴·디 :몯ᄒᆞᄂᆞᆫ ·노·미 하·니·라.

現代韓国語訳：

우리 나라 말이 중국과 달라 한자와는 서로 통하지 아니하여서 이런 까닭으로 어리석은 백성이 말하고자 하는 바가 있어도 마침내 제 뜻을 펴지 못하는 사람이 많다.

3　日韓漢字語の違い

日本語と韓国語では、ともに中国語から大量の単語（漢語／漢字語）を輸入しただけでなく、開化期に日本語から韓国語へ新しい概念の言葉が大量に流入したこともあり、漢語の80～90%が共通するとも言われています。しかしその一方で、日本では使わなくなった漢語や、韓国独自に作られた漢語も多数あります。ここではそのような、日本語と韓国語で違いのある漢字語を集めてみました。

なお、この他にも日韓両語で共通していながら、意味やニュアンスにずれのある言葉も少なくありません。たとえば、「参席(サンセキ/참석)」という言葉は、韓国語では会合や集まりに参加する場合、普通に用いられますが、日本語では卒業式や結婚式など、式典に招待されて参加する場合に用法が限られます。このように細かい意味やニュアンスの違いを持つ語はたくさんありますが、それらについては割愛しました。

3.1 日本にはない（あるいはほとんど使われない）韓国漢字語

假令 가령	たとえ	能熟 능숙	巧み、上手	銘心 명심	肝に銘じる
家門 가문	家柄、一門	能通 능통	精通	名銜 명함	名刺
間或 간혹	たまに	團束 단속	取り締まり	木手 목수	大工
計座 계좌	口座	短點 단점	短所	問病 문병	病気見舞い
感気 감기	風邪	當付 당부	お願い	門安 문안	見舞い
江山 강산	山川	當身 당신	あなた	問議 문의	問い合わせ
客地 객지	よその土地	當場 당장	その場､即座に	美粧院 미장원	美容院
景致 경치	景色	唐慌 당황	慌てる(こと)	飯饌 반찬	おかず
苦生 고생	苦労	對答 대답	返答、返事	房 방	部屋
空回轉 공회전		代身 대신	代理、代りに	房門 방문	障子
空ぶかし､アイドリング		待接 대접	もてなし	坊坊曲曲 방방곡곡	
求景 구경	見物	德分 덕분	おかげ		津々浦々
窮理 궁리	工夫、思案	德澤 덕택	おかげ	放學 방학	学校休み
急先務 급선무	急務	都賣 도매	卸売	法院 법원	裁判所
男女老少 남녀노소		圖謀 도모	図る(こと)	別世 별세	逝去
	老若男女	圖章 도장	はんこ	福券 복권	宝くじ
男便 남편	夫	滿發 만발	満開	福德房 복덕방	不動産屋
男学生 남학생	男子学生	萬若 만약	もし	複道 복도	廊下
來後年 내후년	再来年	賣盡 매진	売切れ	富者 부자	金持ち
弄談 농담	冗談	盟誓 맹세	誓い	副統領 부통령	副大統領
賂物 뇌물	賄賂	面刀 면도	ひげそり	分付 분부	言いつけ

粉筆 분필 白墨､チョーク
粉紅 분홍 ピンク
不過 불과 わずか
莎果 사과 林檎ﾘﾝｺﾞ
謝過 사과 謝罪
辭讓 사양 遠慮
奢侈 사치 贅沢
商街 상가 商店街
相議 상의 話し合い
傷處 상처 傷（ロ）
生日 생일 誕生日
西紀 서기 西暦
碩士 석사 修士
膳物 선물 贈り物
設令 설령 たとえ
設使 설사 たとえ
雪糖 설탕 砂糖
誠金 성금 寄付金
省墓 성묘 墓参り
姓銜 성함 お名前
性戯弄 성희롱 セクハラ
世上 세상 世間
洗手 세수 洗顔
所聞 소문 うわさ
燒酒 소주 焼酎
所重 소중 大切
逍風 소풍 遠足
俗談 속담 ことわざ
手巾 수건 手ぬぐい
水泳服 수영복 水着
手票 수표 小切手
巡警 순경 巡査
順産 순산 安産
始作 시작 開始
食口 식구 家族
身世 신세 世話
失手 실수 失敗、ミス
甚至於 심지어 甚だしくは
按酒 안주 酒の肴
押留 압류 差し押さえ
約婚 약혼 婚約
陽傘 양산 日傘
養齒 양치 うがい･歯磨き
於音 어음 手形
於此彼 어차피 どうせ
女高 여고 女子高
女大 여대 女子大
女俳優 여배우 女優
如否 여부 可否、如何
亦是 역시 やはり
念慮 염려 心配
禮式場 예식장 結婚式場
緩行 완행 鈍行
外貌 외모 風貌
外販員 외판원 ｾｰﾙｽﾏﾝ
辱 욕 悪口
容恕 용서 容赦、許し
于先 우선 まず
郵遞局 우체국 郵便局
郵遞筒 우체통 ポスト
郵票 우표 切手
原稿紙 원고지 原稿用紙
原電 원전 原発、原子力発電所
威脅 위협 脅し
有婦男 유부남 既婚男性
有夫女 유부녀 既婚女性
銀河水 은하수 天の川
陰凶 음흉 陰険
移徙 이사 引っ越し
已往 이왕 どうせ
仁慈 인자 慈愛
認許可 인허가 許認可
日気豫報 일기예보 天気予報
日製 일제 日本製
自鳴鐘 자명종 目覚し時計
子正 자정 夜の12時
作別 작별 別れ
作心三日 작심삼일 三日坊主
作定 작정 つもり
掌匣 장갑 手袋
葬禮 장례 葬儀
長點 장점 長所
再昨年 재작년 おととし
節次 절차 手続き
接受 접수 受付
精誠 정성 真心
祖上 조상 先祖
操心 조심 用心
罪悚 죄송 恐縮､すまない
罪囚 죄주 囚人
注油所 주유소 ｶﾞｿﾘﾝｽﾀﾝﾄﾞ
仲媒 중매 仲人
紙匣 지갑 財布
眞犯 진범 真犯人
次例 차례 順番
車費 차비 車代
窓門 창문 窓
菜蔬 채소 野菜
冊 책 本
冊床 책상 机
處地 처지 境遇
招人鐘 초인종 呼び鈴

總角 총각　独身男性
秋夕 추석　中秋
出市 출시　新発売
層階 층계　階段
歯薬 치약　歯磨き粉
親舊 친구　友達
親庭 친정　実家
打字 타자　タイピング
他鄕 타향　異鄕
便紙 편지　手紙
便宜店 편의점　コンビニ
弊 폐　迷惑
暴雪 폭설　豪雪
暴炎 폭염　猛暑
暴雨 폭우　豪雨
票 표　切符
學番 학번　学籍番号
學點 학점　大学の単位
閑暇 한가　暇なこと
寒心 한심　惨め
漢藥·韓藥 한약　漢方薬
港口 항구　港
海物 해물　海鮮
海溢 해일　津波
解止 해지　解約
行星 행성　惑星
鄕愁病 향수병　ﾎｰﾑｼｯｸ
賢母良妻 현모양처　良妻賢母
協助 협조　協力
形便 형편　具合、都合、成り行き
惠澤 혜택　特典､サービス
呼訴 호소　訴え
好人 호인　好人物
或是 혹시　もしや
火 화　怒り
花盆 화분　植木鉢
花鬪 화투　花札
換 환　為替
還甲 환갑　還暦
後斂 후렴　リフレイン
後食 후식　デザート
休紙 휴지　ちり紙
吸煙 흡연　喫煙
喜悲劇 희비극　悲喜劇

3.2 日本語とは異なる意味の韓国漢字語（＊は日本語と同じ意味もある）

去來 거래　取引
居室 거실　居間
境遇 경우　場合
繼続 계속(副詞)＊　ずっと
工夫 공부　勉強
近似 근사＊　素敵
來日 내일　明日
多情 다정　情け深い
獨房 독방＊　１人部屋
東海 동해　日本海
登記 등기＊　書留
模様 모양　様子
物件 물건＊　もの、品物
無實 무실＊　不誠実
砂糖 사탕　飴
三輪車 삼륜차三輪自動車
相對 상대＊　相手
生鮮 생선(食物としての)魚
是非 시비＊　言いがかり
失踪 실종　行方不明
愛人 애인　恋人
洋服 양복　背広
言論人 언론인　ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ
外人 외인　無関係な人
琉璃 유리　ガラス
飲料水 음료수　飲み物､ソフトドリンク
飲食 음식　食べ物
議論 의논　相談
人道 인도＊　歩道
人事 인사＊　挨拶
人蔘 인삼　朝鮮人参
一旦 일단＊　一応
子息 자식　息子、やつ
長短 장단＊　リズム
折半 절반　半分
點心 점심　昼食
丁寧 정녕(副詞)　どうあっても
第一 제일(副詞)　一番、最も
宗家 종가　本家
八字 팔자　運命
平生 평생　生涯
割愛 할애　割く(こと)
恒常 항상(副詞)＊　いつも
該當 해당　当該
湖水 호수　湖

3.3 実は日本の訓読み熟語がそのまま韓国漢字語となったもの

假縫 가봉	仮縫い	先拂 선불	先払い	組合 조합	組合
建物 건물	建物	船着場 선착장	船着き場	株式 주식	株式
見積 견적	見積もり	小包 소포	小包	株主 주주	株主
見習 견습	見習い	手當 수당	手当	追越 추월	追い越し
覺書 각서	覚え書き	手續 수속	手続き	出入口 출입구	出入口
大賣出 대매출	大売出し	手荷物 수하물	手荷物	虫齒 충치	虫歯
貸切 대절	貸し切り	試合 시합	試合	取扱 취급	取り扱い
待合室 대합실	待合室	眼鏡 안경	眼鏡	取消 취소	取り消し
埋立 매립	埋め立て	役割 역할	役割	下回 하회(하다)	下回る
賣上 매상	売上げ	葉書 엽서	葉書	割引 할인	割引
買占 매점	買い占め	引上 인상	引き上げ	割増 할증	割増
民草 민초	民草	引下 인하	引き下げ	合乘 합승	合い乗り
不渡 부도	不渡り	立場 입장	立場	後拂 후불	後払い
上回 상회(하다)	上回る	組立 조립	組み立て		

3.4 日本で常用漢字表外の字を代用字に換えているもの

鞏固 공고	強固	兩棲類 양서류	両生類	尖鋭 첨예	先鋭
濫用 남용	乱用	刺戟 자극	刺激	抽籤 추첨	抽選
斷乎 단호	断固	障碍 장애	障害	抛棄 포기	放棄
封套 봉투	封筒	銓衡 전형	選考	抛物線 포물선	抛物線
繃帶 붕대	包帯	綜合 종합	総合	函數 함수	関数
手帖 수첩	手帳	尖端 첨단	先端		

伍　日本漢字音

1　総論

1.1 日本漢字音の種類

韓国では漢字音には１種類しかありませんが、日本では１つの文字に複数の漢字音があることが少なくありません。

日本語では、漢字の音を呉音・漢音・唐音・慣用音の４つに区別しています。このうち大部分の字は呉音または漢音を持ち、唐音・慣用音を持つ字はわずかです。

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
呉音	イチ	ニ	サン	シ	ゴ	ロク	シチ	ハチ	ク	ジフ
漢音	イツ	ジ	サン	シ	ゴ	リク	シツ	ハツ	キュウ	シフ

多くの字には呉音と漢音がありますが、片方がないものや２つの音が同じで区別できないものもたくさんあります。上の例では、六・七・八・十の漢音はほとんど使われないため、常用漢字表に載っていません。

(1) 呉音（ごおん）：

５～６世紀頃、日本語に入ってきた漢字音。

中国の呉地方（長江下流域）で話されていた字音に基づいているからというが、実際には古い時代の中国語の音とする説、また百済経由で伝わった音とする説もある。

伝統的な器物の名前や、仏教用語によく使われる。

(2) 漢音（かんおん）：

８世紀前後、日本語に入ってきた漢字音。

遣唐使や渡来中国人によって伝えられた中国語音（特に当時の中国の首都である長安の方言）に基づいている。

学問用語によく使われる。

(3) 唐音（とうおん）：

呉音・漢音より後、平安時代中期（10世紀頃）以降に日本語に入ってきた漢字音。

「宋音（そうおん)」「唐宋音」（とうそうおん）とも言う。例は少ない。

例：　椅子（イス)、蒲団（フトン)、行灯（アンドン)、普請（フシン）

(4) 慣用音（かんようおん）：

①規則から外れた呉音・漢音、②他の字の音が定着したものの２種類がある。

①の例（カッコ内の前が慣用音、後ろが正しい音）：

輸（ユ：シュ）、洗（セン：セイ）、耗（モウ：コウ）、告（コク：コウ）

②の例（後ろの字の音が定着）：

漁（リョウ←猟）、石（コク←斛）、反（タン←段）

その他、蒸（蒸籠セイロウ）や茶（チャ）のような、漢音以降、唐音以前に入ってきた音を慣用音に入れてある場合もある（厳密には間違い）。

なお、基本的に呉音は呉音同士で、漢音は漢音同士で熟語を作りますが、混じり合っている例も少なくありません。

例）　言語（ゲンゴ）　言：漢音　語：呉音

1.2 漢音と呉音のわかりやすい相違点

（例のうち前が呉音・後が漢音、仮名づかいは歴史的仮名づかい）

(1) 濁音が呉音、清音が漢音

これは北方中国語で８世紀頃、有声音が無声音になる（b→p、v→f、d→t、ɖ→ʈ、dz→ts、dʒ→tʃ、z→s、ʒ→ʃ、g→k、ɣ→x）という変化が起こったからです。それ以前に日本に来た呉音は濁音のままですが、それ以降に日本に来た漢音は清音になってしまいました。

例：極＝**ゴ**ク・**キ**ョク、成＝**ジ**ャウ・**セ**イ、弟＝**ダ**イ・**テ**イ、白＝**ビ**ャク・**ハ**ク

(2) ナ行が呉音、ダ行が漢音

これは (1) の変化と同じ時期に、鼻音が有声子音（濁音）に変化したからです。

中国語の n（泥母）や ɳ（娘母、舌を巻き上げて発音した n）は、８世紀頃にそれぞれ n → nd、ɳ →ɳɖ に変化しました。そのため、それ以前に日本に来た呉音では「ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ」ですが、それ以降に日本に来た漢音では「ダ、ヂ、ヅ、デ、ド」となりました。

例：男＝**ナ**ン・**ダ**ン、女＝**ニ**ョ・**ヂ**ョ、怒＝**ヌ**・**ド**

(3) マ行が呉音、バ行が漢音

中国語の m（明母）や ɱ（微母、f のロで発音した m）は、８世紀頃にそれぞれ m → mb、ɱ → ɱv → v に変化しました。そのため、それ以前に日本に来た呉音では「マ・ミ・ム・メ・モ」ですが、それ以降に日本に来た漢音では「バ・ビ・ブ・ベ・ボ」となりました。

例：米＝**マ**イ・**ベ**イ、万＝**マ**ン・**バ**ン、美＝**ミ**・**ビ**、木＝**モ**ク・**ボ**ク

(4) ナ（ニャ）行が呉音、ザ（ジャ）行が漢音

中国語のɲ（日母、日本語の「ニャ」のような子音）は８世紀頃にɲʒ → ʒ(ř)（日本語の「ジャ」に近い子音）に変化しました。そのため、それ以前に日本に来た呉音では「ニャ、ニ、ニュ、ネ、ニョ」ですが、それ以降に日本に来た漢音では「ジャ、ジ、ジュ、ゼ、ジョ」となりました。

例：日＝**ニ**チ・**ジ**ツ、然＝**ネ**ン・**ゼ**ン、若＝**ニ**ャク・**ジ**ャク

(5) ヤウ（ヨウ）・ヤクが呉音、エイ・エキが漢音

中国語のiaŋ・ieŋ / iak・iekのような音（韓国語では영/역になる）は、呉音では語尾がウ・クと表記されましたが、漢音では前の母音の影響でイ・キとなりました。

例：平＝ビャ**ウ**（ヒャ**ウ**）・**ヘイ**、青＝シャ**ウ**・**セイ**、令＝リャ**ウ**・**レイ**

役＝**ヤク**・**エキ**、石＝シャ**ク**・**セキ**

(6) チが呉音、ツが漢音。

語尾の-tは呉音ではしばしば「チ」と読みます。特にイやエの後ろではチになることが多く、逆にウやオの後ろではツが多いです。

例：一＝イ**チ**・イ**ツ**、八＝ハ**チ**・ハ**ツ**、質＝シ**チ**・シ**ツ**

(7) その他の細かい区別

a. ワ行が呉音、カ（クヮ）行が漢音

例：絵＝**エ**・**クヮ**イ、恵＝**エ**・**ケ**イ、黄＝**ワ**ウ・**クヮ**ウ

b. エが呉音、アが漢音

例：家＝**ケ**・**カ**、下＝**カ**・**ゲ**、馬＝**バ**・**メ**、間＝**ケ**ン・**カ**ン、殺＝**セ**ツ・**サ**ツ

c. オが呉音、アが漢音

例：反＝**ホ**ン・**ハ**ン、発＝**ホ**ツ・**ハ**ツ、凡＝**ボ**ン・**ハ**ン、法＝**ホ**フ・**ハ**フ

d. オが呉音、エが漢音

例：建＝**コ**ン・**ケ**ン、厳＝**ゴ**ン・**ゲ**ン、業＝**ゴ**フ・**ゲ**フ

e. アが呉音、エが漢音

例：元＝**グヮ**ン・**ゲ**ン、月＝**グヮ**ツ・**ゲ**ツ

f. オが呉音、イが漢音

例：音＝**オン・イン**、勤＝**ゴン・キン**、己＝**コ・キ**、六＝**ロク・リク**

g. エが呉音、イが漢音

例：施＝**セ・シ**、気＝**ケ・キ**、依＝**エ・イ**

h. アイが呉音、エイが漢音

例：米＝**マイ・ベイ**、体＝**タイ・テイ**、西＝**サイ・セイ**、礼＝**ライ・レイ**

i. エが呉音、アイが漢音

例：回＝**エ・クヮイ**、解＝**ゲ・カイ**

j. ヤウ（ヨウ）・ヤクが呉音、アウ（オウ）・アクが呉音

例：行＝ギ**ャウ・コウ**、客＝キ**ャク・カク**、白＝ビ**ャク・ハク**

k. イキが呉音、ヨクが漢音

例：色＝**シキ・ショク**、力＝**リキ・リョク**、直＝**ヂキ・チョク**

l. ウが呉音、オが漢音

例：図＝**ヅ・ト**、素＝**ス・ソ**、重＝ヂ**ュウ・チョウ**、従＝ジ**ュウ・ショウ**

m. アが呉音、ヤが漢音

例：強＝**ガウ・キャウ**、象＝**ザウ・シャウ**、

n. オが呉音、ヨが漢音

例：去＝**コ・キョ**、極＝**ゴク・キョク**、緑＝**ロク・リョク**

o. ウが呉音、ユ（ユウ）が漢音

例：有＝**ウ・ユウ**、九＝**ク・キュウ**、主＝**ス・シュ**、宮＝**グウ・キュウ**

p. ウが呉音、オウ・ウウが漢音

例：ロ＝**ク・コウ**、豆＝**ヅ・トウ**、エ＝**ク・コウ**

q. その他

例：対＝**ツイ・タイ**、遺＝**ユヰ・ヰ**

1.3 韓日漢字音対応表（ただし日本語は漢音のみ）

初声… ㄱㅎ(ㅋ)：カ行　　ㄴ：　ダ(ナ)行
ㄷㅌ：　タ行　　ㄹ：　ラ行
ㅁ：　バ(マ)行　　ㅂㅍ：　ハ行
ㅈㅊㅅ(ㅆ)：サ行　　ㅇ：　①ア・ヤ・ワ行 ②ガ行 ③ザ行

中声… 아：　①ア(ヤ) ②イ　　야：　ヤ
어：　①エ ②ヨ　　여：　①エ ②ヨ
오：　①オ(ヨ) ②オウ(ヨウ)　　요：　①ヨ ②ヨウ(オウ)
우：　①ウ(ユ) ②オウ ③ウイ　　유：　①ユ(ウ) ②イウ ③ウイ
으：　①オ ②イ　　이：　イ
애：　①アイ ②エ(앵액)　　에예：　エイ(アイ)
의：　イ
외：　①ワイ (アイ) ②ワ(왕왹)　　위：　①ヰ ②ウイ
와：　ワ(ア)　　왜：　ワイ(アイ)
워：　ヲ(エ)　　웨：　ウイ

終声… ㅇ：　①ウ ②イ(영)　　ㄴㅁ：　ン
ㄱ：　①ク ②キ(역)　　ㄹ：　ツ
ㅂ：　フ(ツ)

2　韓国・日本　漢字音の対応（初声編）

左からそれぞれ中古漢語（７～９世紀）の推定音、子音を表すための字母、ハングル、韓国漢字音、呉音、漢音（日本漢字音は子音の行のア段の音で表示)。

唇音

p	幫	ㅂ	ㅂ,ㅍ	ハ	ハ	f	非	ㅱ	ㅂ,ㅍ	ハ	ハ
p‘	滂	ㅍ	ㅂ,ㅍ	ハ	ハ	f‘	敷	ㆄ	ㅂ,ㅍ	ハ	ハ
b	並	ㅃ	ㅂ,ㅍ	バ	ハ	v	奉	ㅸ	ㅂ,ㅍ	バ	ハ
m	明	ㅁ	ㅁ	マ	バ	ʋ	微	ㅱ	ㅁ	マ	バ

舌音

t	端	ㄷ	ㄷ,ㅌ	タ	タ	ʈ	知	ㄷ	ㄷ,ㅌ	タ	タ
t‘	透	ㅌ	ㅌ,ㄷ	タ	タ	ʈ‘	徹	ㅌ	ㅌ,ㄷ	タ	タ
d	定	ㄸ	ㅌ,ㄷ	ダ	タ	ɖ	澄	ㄸ	ㅌ,ㄷ	ダ	タ
n	泥	ㄴ	ㄴ	ナ	ダ	ɳ	孃	ㄴ	ㄴ	ナ	ダ

牙音

k	見	ㄱ	ㄱ	カ	カ
k‘	溪	ㅋ	ㄱ	カ	カ
g	群	ㄲ	ㄱ	ガ	カ
ŋ	疑	ㆁ	ㅇ	ガ	ガ

歯音

ts	精	ㅈ	ㅈ	サ	サ	tʃ	照	ㅈ	ㅈ	サ	サ
ts‘	清	ㅊ	ㅊ	サ	サ	tʃ‘	穿	ㅊ	ㅊ	サ	サ
dz	従	ㆍㅈ	ㅊ,ㅅ	ザ	サ	dʒ	牀	ㆍㅊ	ㅊ,ㅅ	ザ	サ
s	心	ㅅ	ㅅ	サ	サ	ʃ	審	ㅅ	ㅅ	サ	サ
z	邪	ㆍㅅ	ㅅ	ザ	サ	ʒ	禅	ㆍㅅ	ㅅ	ザ	サ

喉音

ʔ	影	ㆆ	ㅇ	ア	ア
h	暁	ㅎ	ㅎ	カ	カ
ɦ	匣	ㆅ	ㅎ	ガ	カ
ɸ(j)	喩	ㅇ	ㅇ	ヤ	ヤ

半舌音

l	来	ㄹ	ㄹ,ㄴ,ㅇ	ラ	ラ

半歯音

ř	日	ㅿ	ㅇ	ニャ	ジャ

2.1 子音の対応

中国語の破裂音・破擦音（ㅈㅊの類）にはもともと無声無気音（韓国語の平音)、無声有気音（激音)、有声音（日本語の濁音）の３種類がありました。ところが韓国語には無声無気音と無声有気音しかなく、一方日本語には無声無気音（清音）と有気音しかありません。

そのため、韓国語では有声音を平音または激音であらわし、日本語では無声有気音を清音であらわしました。だから、韓国語の平音・激音と日本語の清音・濁音の区別は**全く一致しません。**

（訓民正音制定時には、中国語の濁音をあらわすために現在濃音の表記に使う ㄲ, ㄸ, ㅃ, ㅆ, ㅉ を使っていました。しかし中国語でもすでに濁音は一部の方言を除いて消滅していたこともあり、ついに韓国語に濁音は定着しませんでした。また、中国語の無気音と有気音の区別は、**なぜか**韓国漢字音の平音・激音とあまり一致しません）

ㄱㅋ=カ・ガ行

感 감 **カ**ン、快 쾌 **カ**イ；技 기 **ギ**、軍 군 **グ**ン

※ㅋは「快 쾌」とその同じ音の字にしか現れません。

ㄷㅌ=タ・ダ行

単 단 **タ**ン、択 택 **タ**ク；団 단 **ダ**ン、脱 탈 **ダ**ツ

ㅂㅍ=ハ・バ行

反 반 **ハ**ン、皮 피 **ヒ**；部 부 **ブ**、便 편 **ベ**ン

ㅈㅊ=サ・ザ行

作 작 **サ**ク、創 창 **ソ**ウ；造 조 **ゾ**ウ、銃 총 **ジュ**ウ

ㅅ=サ・ザ行

散 산 **サ**ン、氏 씨 **シ**；城 성 **ジョ**ウ、善 선 **ゼ**ン

ㅎ=カ・ガ行

漢 한 **カ**ン、希 희 **キ**；賀 하 **ガ**、現 현 **ゲ**ン

ㄹ=ラ行

落 락(낙) **ラ**ク、連 련(연) **レ**ン、論 론(논) **ロ**ン、理 리(이) **リ**

ㅁ=マ・バ行

毎 매 **マ**イ、無 무 **ム**；文 문 **ブ**ン、謀 모 **ボ**ウ

ㄴ=ナ・ダ行

難 난 **ナ**ン、寧 녕 **ネ**イ；男 남 **ダ**ン、努 노 **ド**

ㅇ=ア・ヤ・ワ行

安 안 **ア**ン、以 이 **イ**、億 억 **オ**ク、約 약 **ヤ**ク、腕 완 **ワ**ン

ㅇ=ナ行・ザ行（14世紀にはㅿ）

熱 열 **ネ**ツ、肉 육 **ニ**ク：児 아 **ジ**、弱 약 **ジャ**ク

ㅇ=ガ行（14世紀にはㆁ）

語 어 **ゴ**、岩 암 **ガ**ン

3　韓国・日本　漢字音の対応（中声編）

左からそれぞれ中古漢語（7～9世紀）の推定音、韻を表す字（韻目）、韓国漢字音、日本漢字音の呉音、漢音（ただし表記は歴史的仮名遣いです）。

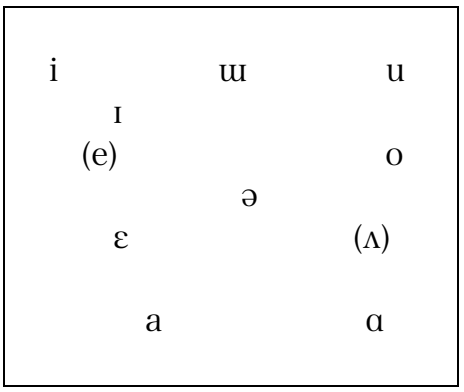
ɑ	歌	ㅏ	ア	ア	uɑ	歌	ㅘ	ワ・ア	ワ・ア
a	麻	ㅏ	エ	ア	ua	麻	ㅘ	エ・ヱ	ワ・ア
ia	麻	ㅑ	エ	ヤ					
ɪi	脂	ㅢ・ㅣ	イ・エ	イ	ɪui	脂	ㅟ・ㅞ	ヰ・ウイ	ヰ・ウイ
i	脂	ㅣ(ㅏ)	イ・エ	イ	iui	脂	ㅠ(ㅒ)	ヰ・ユイ	ヰ・ウイ
ɪəɪ>ɪ>ɪi	之	ㅢ・ㅣ(ㅏ)	イ・オ	イ					
ɪe>ɪi	支	ㅢ・ㅣ	イ・エ	イ	ɪue>ɪui	支	ㅟ・ㅞ	ヰ・ウイ	ヰ・ウイ
ie>i	支	ㅣ(ㅏ)	イ・エ	イ	iue>iui	支	ㅠ(ㅒ)	ヰ・ユイ	ヰ・ウイ
ɪəi	微	ㅢ・ㅣ	エ・イ	イ	ɪuəi	微	ㅟ・ㅞ	ヰ	ヰ
o	模	ㅗ	オ・ウ	オ					
ɪə	魚	ㅓ・ㅕ(ㅖ)	オ	ヨ	ɪu	虞	ㅜ・ㅠ	ウ・ユ	ユ・ユウ・ウウ
ɑi	泰	ㅐ	アイ・エ	アイ	uɑi	泰	ㅙ	ワイ・ヱ	ワイ
ʌi>ɑi	咍	ㅐ	アイ・エ	アイ	uʌi	灰	ㅙ・ㅐ	ヮイ・ヱ・ウイ	ワイ
ai	夬	ㅐ・ㅖ	アイ・エ	アイ	uai	夬	ㅙ	ワイ・ヱ	ワイ
ɛi>ai	皆	ㅐ・ㅖ	アイ・エ	アイ	uɛi>uai	皆	ㅙ・ㅚ	ワイ・ヱ	ワイ
ɛɪ>ai, a	佳	ㅐ・ㅏ	アイ・エ	アイ・ア	uɛɪ>uai,ua	佳	ㅙ・ㅘ	ワイ・ヱ	ワイ・ワ
ɪɛi	祭	ㅖ	ㅕイ・エ・ㅣイ	エイ	ɪuɛi	祭	ㅞ・ㅟ	ㅕイ・ヱ・ヮイ	エイ
iɛi	祭	ㅖ(ㅕ)	ㅕイ・エ・ㅣイ	エイ	iuɛi	祭	ㅖ(ㅠ)	ㅕイ・ヱ・ヮイ	エイ
ɪʌi>ɪɛi	廃	ㅖ	エイ・エ	アイ	ɪuʌi>ɪuɛi	廃	ㅖ	エイ・ヱ	ワイ
ei>iei	斉	ㅖ(ㅕ)	ㅕイ・エ・ㅣイ	エイ	uei>iuei	斉	ㅖ(ㅠ)	ㅕイ・ヱ・ヮイ	エイ
əu	侯	ㅜ	ウ	オウ					
ɪəu	尤	ㅜ	ウ・ユ	イウ・ウウ					
ieu	幽	ㅠ	イウ・エウ	イウ					
ɑu	豪	ㅗ	アウ・オ	アウ・オウ					
au	肴	ㅛ・ㅗ	エウ	アウ					
ɪɛu	宵	ㅛ	エウ	エウ					
iɛu	宵	ㅛ	エウ	エウ					
eu>ieu	蕭	ㅛ	エウ	エウ					

3.1 母音の対応

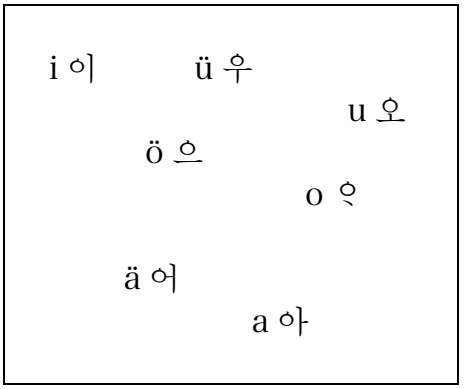
母音の韓国語と日本語の対応も複雑です。これは元になった中国語の音の受け止め方が違ったからです。

8～10世紀ごろの中国語には [ɑ, a, ɛ(e), ə(ʌ), o, ɪ, i, ɯ, u] と9種類ぐらいの母音があったようです。またこれらが組み合わさった複合母音も沢山ありました。

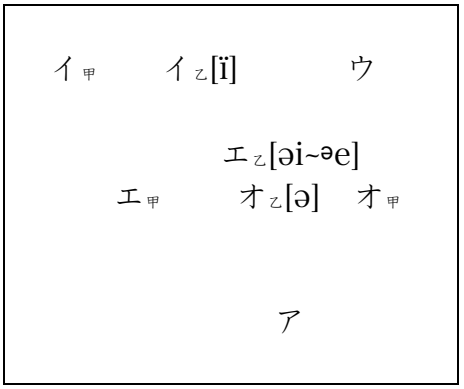
これを日本語では５種類(奈良時代には８種類だったが平安時代までに減少)、韓国語では７種類の母音であらわしました。これらの母音は中国語のより数が少なく、また微妙に違っていたため、日韓の漢字音同士の母音の対応も複雑になりました。



9世紀頃の中国語の母音



新羅時代の韓国語母音（李基文説）



奈良時代の日本語母音（森博達説）

ɑ：後寄りのア。韓国・日本漢字音ともにㅏ/ア。

a：前寄りのア。韓国漢字音ではㅏ、日本漢字音でもアだが、呉音の場合エで現れることが多い(上代特殊仮名遣ではアまたはエ甲類)。

ɛ (e)：エに近い。原則として ɪ/i の後に ɪɛ, iɛ の形で現れる。韓国漢字音ではㅓ, ㅕ、日本漢字音ではエで現れる（上代特殊仮名遣では ɪɛ がエ乙類、iɛ がエ甲類)。

ə (ʌ)：英語のあいまい母音のような音だったらしい。韓国漢字音では・（アレア）で写されたが、現代語ではㅏまたはㅡで現れる。日本漢字音ではオ（上代特殊仮名遣ではオ乙類)。

o：オ。韓国漢字音・日本漢字音ともにㅗ/オ。

ɪ：広いイ。主に複合母音の一部として他の母音の前にあらわれる。韓国漢字音ではㅡで現れるが、他の母音の前ではふつう消えてしまう。日本漢字音ではイ（上代特殊仮名遣ではイ乙類）だが、呉音ではオで現れる場合も多い。

i：狭いイ。複合母音の一部として他の母音の前後に現れることが多い。韓国漢字音、日本漢字音ともにㅣ/イ（上代特殊仮名遣ではイ甲類)。

ɯ：現代中国語の zi, ci, si の母音。韓国語のㅡ、日本語のス・ツの母音に近い（実際には [z] のような音。音声学的には子音だが母音のように聞こえる)。9世紀頃から、ts, tsh, dz, s, z などの後の i（終声なし）が変化して出現した比較的新しい母音。日本漢字音にこの母音は反映されないが、唐音でウのように読む例がある。

u：唇を丸めたウ（ㅜ)。単独で現れるほか、複合母音の一部として他の母音の前後に現れる。韓国漢字音・日本漢字音ともにㅜ/ウ。

3.2 単母音

ㅏ：ア

可 가 カ、馬 마 バ、漢 한 カン、南 남 ナン、当 당 タウ（トウ）、博 박 ハク

中国語の [ɑ, a, ɪa] を表すのに使われました。

ㅏ：エ

家 가 ケ、限 한 ゲン、減 감 ゲン、殺 살 セツ

中国語の [a] は、呉音では多くエで表されます。

ㅏ：イ

詞 사 シ、姉 자 シ、次 차 ジ、児 아 ジ

これは一見、非常に不思議な対応です。ここでのㅏは中世韓国語では・（アレア）で書かれていました。・は中国語の [ə] を表記するのに用いられましたが、なぜか [ɯ]（一のような音、ただし音声学的には子音 [z] が長くなった音）を表すのにも使われました（どうもこの母音は ə に近いものだと感じられたようです)。これらの字は現代中国語でも「ツー、スー（스, 즈, 츠に近い音)」のように発音します。

日本漢字音では普通、 [ɯ] は [i, ɪ] と区別されません。「様子（ようす)」の「ス」のような、わずかな例でウと発音するぐらいです。

なお「児 아（中世韓国語ではᄋᆞまたはᄋᆞ)」は、中世中国語の [rɯ] または子音と母音の融合した [ə] のような音に由来するようです。

ㅓ：エ

西 서 セイ、健 건 ケン、言 언 ゲン、鉄 철 テツ、先 선 セン

ㅓは今は [ʌ〜ɔ] に近い音ですが、昔はもっと前寄りで [ɛ] に近い母音だったようです。そのため、中国語の [ɛ] を表すのに使われました。

ㅓ：オ（ヨ）

去 거 キョ、魚 어 ギョ、著 저 チョ、許 허 キョ

ㅓは中国語の [ɪʌ] を表すのにも使われています。なおこれらは呉音では「去 거 コ、語 어 ゴ」のように「オ」となるものが多いです。

ㅗ：オ

古 고 コ、路 로 ロ、祖 조 ソ、温 온 オン、速 속 ソク、農 농 ノウ

中国語の [o, ɪo, uo] を表すのに使われました。

ㅗ：オウ（アウ）

高 고 カウ（コウ)、包 보 ハウ（ホウ)、草 초 サウ（ソウ)

ㅗは中国語の [ɑu, au] を表すのにも使われました。韓国語には u で終わる二重母音がないので、音の近い o であらわしたようです。

ㅜ：ウ

宇 우 ウ、武 무 ブ、物 물 ブツ、分 분 フン、屈 굴 クツ

中国語の [u, ɪu] を表すのに使われました。

ㅜ：オウ、イウ

口 구 コウ、頭 두 トウ、奏 주 ソウ、後 후 コウ

九 구 キウ（キュウ)、秋 추 シウ（シュウ）

ㅜは中国語の [əu, ɪəu] を表すのにも使われました。これらは呉音ではウ（ユ)、一部オになります（ロク、頭ズ、九ク；後ゴ)。

ㅜ：イ

菊 국 キク、竹 죽 チク

中国語の [ɪəuk] を日本語では [iʷk] のようにとらえ、漢音でイクと表しました。

なお類似の [ɪək, ɪuək] は（呉音で）イキとなり、区別されます（色シキ、域イキ)。

ㅡ：イ

金 금 キン、銀 은 ギン、急 급キフ（キュウ）

ㅡ：オ、ヨ

恩 은 オン、興 흥 コウ・キョウ、黒 흑 コク、音 음 オン・イン

中国語の [ə, ɪ, ɪə] を表すのに使われました。日本の漢字音では呉音でオと読む場合が多いです（金コン、銀ゴン)。

ㅣ：イ

美 미 ビ、利 리 リ、地 지 チ、引 인 イン、室 실 シツ、針 침 シン

中国語の [i, iə] を表すのに使われました。

3.3前に y の付く母音

ㅑ：ヤ

夜 야 ヤ、薬 약 ヤク、響 향 キャウ

ㅕ：エ（ヤ・ア)

犬 견 ケン、別 별 ベツ、英 영 エイ、歴 력 レキ、兼 겸 ケン、協 협 ケフ

逆 역 ギャク・ゲキ、驚 경 キャウ、令 령 レイ・リョウ；格 격 カク

ㅕ：ヨ

与 여 ヨ、慮 려 リョ

ㅛ：ヨ（ユ)；エウ（ヨウ)；アウ

欲 욕 ヨク、用 용 ヨウ、龍 룡 リュウ

妙 묘 メウ、教 교 ケウ；交 교 カウ、孝 효 カウ

ㅠ：ユ；ユウ（ヨウ）；イ

喩 유 ユ、流 류 リュウ、休 휴 キュウ

融 융 ユウ、胸 흉 キョウ、肉 육 ニク；規 규 キ、均 균 キン

3.4 合成母音（後ろにㅣが付く）

ㅐ：アイ

愛 애 アイ、開 개 カイ、来 래 ライ、倍 배 バイ、海 해 カイ

ㅒ：ア（ヤ）

行 행 カウ・ギャウ、客 객 キャク・カク、策 책 サク

ㅖ、ㅞ：エイ（アイ）

掲 게 ケイ、勢 세 セイ、制 제 セイ；体 체 タイ（テイ）

渓 계 ケイ、恵 혜 ケイ、礼 례 レイ、藝 예 ゲイ

ㅚ：ワイ（アイ）；ワ

外 외 グヮイ、会 회 クヮイ；退 퇴 タイ、最 최 サイ；횡 横ワウ、획画クヮク

ㅟ：イ（ヰ）、ウイ

帰 귀 キ（クヰ）、酔 취 スイ

ㅢ：イ

医 의 イ、喜 희 キ

3.5 合成母音（前にㅗ, ㅜが付く）

ㅘ：ワ、ア

和 화 ワ、王 왕 ワウ、拡 곽 クヮク、観 관 クヮン、活 활 クヮツ

座 좌 ザ、撮 촬 サツ

ㅙ：ワイ、アイ

快 쾌 クヮイ、砕 쇄 サイ

ㅝ：エ（ヱ）、オ（ヲ）、ワ

遠 원 ヱン・ヲン、権 권 ケン・ゴン、越 월 ヱツ・ヲチ

元 원 ゲン・グヮン、月 월 ゲツ・グヮツ

ㅞ：イ（ヰ）、イ

毀 훼 キ（クヰ）、軌 궤 キ（クヰ）、悴 췌 スイ

4　韓国･日本　漢字音の対応（終声編）

左から中古漢語 (7～9世紀) の推定音、韻を表す字 (韻目)、韓国漢字音、呉音、漢音。

ɑŋ	唐	앙	アウ	アウ	uɑŋ	唐	왕	ワウ	ワウ
ɪɑŋ	陽	앙･양	アウ･ヤウ	ヤウ	ɪuɑŋ	陽	왕	ワウ	ワウ
auŋ>aŋ	江	앙	アウ･オウ	アウ					
uŋ>oŋ	東	옹	ウウ･ウ	オウ	oŋ	冬	옹	オウ･ウ	オウ
ɪəuŋ	東	웅･융	ウウ･ウ･ュ	イウ	ɪoŋ	鍾	옹･용	ウウ･ウ･ュ	ヨウ
əŋ	登	응･앙	オウ	オウ	uəŋ	登	웅･옹	オウ	オウ
ɪəŋ>ɪŋ	蒸	응･잉	オウ･ヨウ	ヨウ					
aŋ>aɲ	庚	앵･영	ヤウ	アウ	uaŋ>uaɲ	庚	왱	ワウ･ヤウ	ワウ
ɛŋ>aɲ	耕	앵･영	ヤウ	アウ	uɛŋ>uaɲ	耕	왱	ワウ	ワウ
ɪaŋ>ɪɛɲ	庚	영	ヤウ	エイ	ɪuaŋ>ɪuɛɲ	庚	영	ワウ	エイ
iɛŋ>iɛɲ	清	영	ヤウ	エイ	iuɛŋ>iuɛɲ	清	영	ワウ	エイ
eŋ>ieɲ	青	영	ヤウ	エイ	ueŋ>iueɲ	青	영	ヤウ	エイ

ɑn	寒	안	アン	アン	uɑn	桓	완･안	ワン･アン	ワン･アン
an	刪	안	エン	アン	uan	刪	완･안	ヱン･エン	ワン･アン
ɛn>an	山	안	エン	アン	uɛn>uan	山	완･안	ヱン･エン	ワン･アン
ɪɛn	仙	언･연	エン	エン	ɪuɛn	仙	원･연	ヱン･エン	ヱン･エン
iɛn	仙	연	エン	エン	iuɛn	仙	연	エン	エン
en>ien	先	연	エン	エン	uen>iuen	先	연	エン	エン
ɪʌn>ɪɛn	元	언	オン･アン	エン	ɪuʌn>ɪuɛn	元	원･안	ヲン･ワン	ヱン･アン
ʌn>ən	痕	은･안	オン	オン	uʌn>uən	魂	온･운	オン･ウン	オン
ɪən	欣	은(언)	オン	イン	ɪuən	文	운	オン･ウン	ウン
ɪen	真臻	은･인	オン	イン	ɪuen	諄	운･윤	ウン･ユン	ヰン･ユン
ien	真	인	イン	イン	iuen	諄	윤	ヰン･ユン	ヰン･ユン

ɑm	談	암	アム	アム
ʌm>ɑm	覃	암	アム･オム	アム
am	銜	암	エム	アム
ɛm>am	咸	암	エム	アム
ɪɛm	塩	엄･염	エム	エム
iɛm	塩	염	エム	エム
em>iem	添	염	エム	エム
ɪʌm>ɪɛm	厳	엄	オム	エム
ɪem	侵	음	オム	イム
iem	侵	음･임	イム	イム

※終声がmのものは便宜的に「ム」としたが、実際には13世紀以降nとmの区別はなくなり、「ム」「ン」両方が区別なく用いられるようになる。

ɪuʌm>ɪuɛm	凡	엄	オム	アム

ɑk	鐸	악	アク	アク	uɑk	鐸	왁	ワク	ワク
ɪɑk	薬	악·약	アク·ヤク	ヤク	ɪuɑk	薬	왁	ワク	ワク
auk>ak	覚	악	アク·オク	アク					
uk>ok	屋	옥	ウク·オク	オク	ok	沃	옥	オク	オク
ɪəuk	屋	욱·육	ウク·イク	イク	ɪok	燭	옥·욕	オク·ユク	ヨク
ək	徳	윽·악(억)	オク	オク	uək	徳	욱·옥	オク·ワク	オク
ɪək	職	윽·익(억역)	オク·イキ	ヨク	ɪuək	職	역	イキ	ヨク
ak>ac	陌	액·역	ヤク	アク	uak>uac	陌	왹	ワク	ワク
ɛk>ac	麦	액·역	ヤク	アク	uɛk>uac	麦	왹	ワク	ワク
ɪak>ɪɛc	陌	역(윽)	ヤク	エキ	ɪuak>ɪuɛc	陌	역	ヤク	エキ
iɛk>iɛc	昔	역	ヤク	エキ	iuɛk>iuɛc	昔	역	ヤク	エキ
ek>iec	錫	역	ヤク	エキ	uek>iuec	錫	역	ヤク	エキ

ɑt	曷	알	アチ	アツ	uɑt	末	왈·알	ワチ·アチ	ワツ·アツ
at	鎩	알	エチ	アツ	uat	鎩	왈·알	ヱチ·エチ	ワツ·アツ
ɛt>at	黠	알	エチ	アツ	uɛt>uat	黠	왈·알	ヱチ·エチ	ワツ·アツ
ɪɛt	薛	얼·열	エチ	エツ	ɪuɛt	薛	월·열	ヱチ·エチ	ヱツ·エツ
iɛt	薛	열	エチ	エツ	iuɛt	薛	열	エチ	エツ
et>iet	屑	열	エチ	エツ	uet>iuet	屑	열	エチ	エツ
ɪʌt>ɪɛt	月	얼	オチ·アチ	エツ	ɪuʌt>ɪuɛt	月	월·알	ヲチ·ワチ	ヱツ·アツ
ʌt>ət	没	을·알	オチ	オツ	uʌt>uət	没	올·울	オチ·ウツ	オツ
ɪət	迄	을(얼)	オチ	イツ	ɪuət	物	울	オチ·ウツ	ウツ
ɪet	質櫛	을·일	オチ	イツ	ɪuet	術	울·율	イチ·オチ	ヰツ
iet	質	일	イチ	イツ	iuet	術	율	イチ·ユツ	ㇵツ·ヰツ·ユツ

ɑp	盍	압	アフ	アフ			
ʌp>ɑp	合	압	アフ·オフ	アフ			
ap	狎	압	エフ	アフ			
ɛp>ap	洽	압	エフ	アフ			
ɪɛp	葉	업·엽	エフ	エフ			
iɛp	葉	엽	エフ	エフ			
ep>iep	帖	엽	エフ	エフ			
ɪʌp>ɪɛp	業	업	オフ	エフ	ɪuʌp>ɪuɛp	乏	업	オフ	アフ
ɪep	緝	읍	オフ	イフ			
iep	緝	읍·입	イフ	イフ			

※ -t は呉音ではウの前以外で「チ」となることが多いが「ツ」となっているものも多い。ここでは主に「チ」となる形を示した。

4.1 終声の対応

ㅇ：イ・ウ

経 경 ケ**イ**、明 명 メ**イ**、生 생 セ**イ**；江 강 コ**ウ**、峰 봉 ホ**ウ**、風 풍 フ**ウ**

ㄴ：ン

万 만 マ**ン**、韓 한 カ**ン**、本 본 ホ**ン**、人 인 ジ**ン**、君 군 ク**ン**

ㅁ：ン

三 삼 サ**ン**、談 담 ダ**ン**、音 음 オ**ン**、心 심 シ**ン**、林 림 リ**ン**

ㄱ：ク・キ

国 국 コ**ク**、学 학 ガ**ク**、楽 락 ラ**ク**；石 석 セ**キ**、激 격 ゲ**キ**、式 식 シ**キ**

ㄹ：ツ・チ

質 질 シ**ツ**、月 월 ゲ**ツ**、末 말 マ**ツ**；一 일 イ**チ**、吉 길 キ**チ**、八 팔 ハ**チ**

ㅂ：ウ(フ)

葉 엽 エ**フ(ヨウ)**、甲 갑 カ**フ(コウ)**、法 법 ハ**フ(ホウ)**、集 집 シ**フ(シュウ)**

例外：ㅂが日本語で「ツ」と対応するもの。

雑 잡 ザ**ツ**、立 립 リ**ツ**、接 접 セ**ツ**、圧 압 ア**ツ**、湿 습 シ**ツ**

このうち「雑、立」は、「ウ(フ)」と読む場合もあります。

「雑煮 ゾウニ（ザフニ)」、「建立 コンリュウ（コンリフ)」

5　韓国と日本で読み方に大きな違いがある漢字（主に不規則対応）

※ * の付いている字や語は常用漢字表外の音訓、または表外字を含む語。

(1a) 初声がある！

渦	와	カ	渦中カチュウ		渦（うず）
完	완	カン	完了カンリョウ	完成カンセイ	*完うする（まっとうする）
緩	완	カン	緩慢ｶﾝﾏﾝ　緩和ｶﾝﾜ	緩い(ゆるい)緩やか(ゆるやか)緩む(ゆるむ)緩める(ゆるめる)	
危	위	キ	危険キケン	危機キキ　危ない(あぶない)危うい(あやうい)危ぶむ(あやぶむ)	
泣	읍	キュウ	号泣ゴウキュウ		泣く（なく）
染	염	セン	染色ｾﾝｼｮｸ　伝染ﾃﾞﾝｾﾝ	染める(そめる)染まる(そまる)染みる(しみる)染み(しみ)	
賃	임	チン	賃金チンギン	賃貸チンタイ	運賃ウンチン
隷	예	レイ	隷属レイゾク	奴隷ドレイ	

(1b) 初声がない！

彙	휘	イ	語彙ゴイ		
輸	수	ユ	輸出ユシュツ	輸入ユニュウ	運輸ウンユ
湾	만	ワン	湾岸ワンガン	港湾コウワン	
嘔*	구	オウ	嘔吐オウト		嘔く（はく）
鴎*	구	オウ			鴎（かもめ）

(1c) n が t になる！

耐	내	タイ	耐久タイキュウ	忍耐ニンタイ	耐える（たえる）
匿	닉	トク	匿名トクメイ	隠匿イントク	*匿す（かくす）
紐*	뉴	チュウ	紐帯チュウタイ		紐（ひも）

(1d) その他何だか初声が違う！！

粘	점	ネン	粘着ネンチャク	粘土ネンド	粘る（ねばる）
秒	초	ビョウ	秒速ビョウソク	寸秒スンビョウ	1秒イチビョウ

(2a) 中声が｜じゃない！

益	익	エキ(ヤク)	利益リエキ	益虫エキチュウ	*益す（ます、益々ますます）
泥	니	デイ	泥岩デイガン	汚泥オデイ	泥（どろ）
溺	익	デキ	溺死デキシ	耽溺タンデキ	溺れる（おぼれる）
沸	비	フツ	沸騰フットウ	煮沸シャフツ	沸く（わく）沸かす（わかす）
米	미	ベイ・マイ	米穀ベイコク	新米シンマイ　米国ベイコク	米（こめ）
乏	핍	ボウ	貧乏ビンボウ	欠乏ケツボウ	乏しい（とぼしい）
迷	미	メイ	迷路メイロ	迷惑メイワク　低迷テイメイ	迷う（まよう）
悶	민	モン	苦悶クモン	悶絶モンゼツ	悶える（もだえる）
謎	미	*メイ			謎（なぞ）
柴*	시	サイ			柴（しば）
聘*	빙	ヘイ	招聘ショウヘイ		

(2b) 中声がイになる！

員 원 イン　全員ゼンイン　人員ジンイン　満員マンイン
院 원 イン　病院ビョウイン　院長インチョウ　大学院ダイガクイン
机 궤 キ　机上キジョウ　机（つくえ）
季 계 キ　季節キセツ　四季シキ　春季シュンキ
軌 궤 キ　軌道キドウ
毀 훼 キ　名誉毀損メイヨキソン　*毀す（こわす）*毀つ（こぼつ）
児 아 ジ・ニ　児童ジドウ　幼児ヨウジ　小児科ショウニカ　*児（こ）
否 부 ヒ　否定ヒテイ　可否カヒ　否（いな）
罷 파 ヒ　罷免ヒメン　罷業ヒギョウ　*罷る（まかる）*罷める（やめる）
魅 매 ミ　魅力ミリョク　*魑魅魍魎チミモウリョウ　魅せる（ミせる）
眠 면 ミン　睡眠スイミン　安眠アンミン　眠る（ねむる）眠い（ねむい）
詭* 궤 キ　詭弁キベン

(2c) 亅がない！

箇 개 カ　箇所カショ
個 개 コ　個別コベツ　個体コタイ　１個イッコ
鎖 쇄 サ　閉鎖ヘイサ　鎖（くさり）
取 취 シュ　取得シュトク　略取リャクシュ　取る（とる）
趣 취 シュ　趣味シュミ　情趣ジョウシュ　趣（おもむき）
臭 취 シュウ　臭気シュウキ　悪臭アクシュウ　臭い（くさい）臭う（におう）
就 취 シュウ・ジュ　就職シュウショク　成就ジョウジュ　就く（つく）就ける（つける）
諸 제 ショ　諸君ショクン　諸国ショコク　*諸（もろ、諸手もろて）
除 제 ジョ　除外ジョガイ　削除サクジョ　除く（のぞく）*除ける（のける）
汰 태 タ　沙汰サタ　淘汰トウタ
駄 태 ダ　駄目ダメ　駄賃ダチン　*下駄ゲタ
脳 뇌 ノウ　頭脳ズノウ　脳天ノウテン
悩 뇌 ノウ　苦悩クノウ　悩殺ノウサツ（ノウサイとも）　悩む（なやむ）
覇 패 ハ　制覇セイハ　覇権ハケン
罵 매 バ　罵倒バトウ　罵詈雑言バリゾウゴン　罵る（ののしる）
予 예 ヨ　予測ヨソク　猶予ユウヨ　*予め（あらかじめ）*予て（かねて）
誉 예 ヨ　名誉メイヨ　栄誉エイヨ　誉れ（ほまれ）
預 예 ヨ　預金ヨキン　預ける（あずける）預かる（あずかる）
賂 뢰 ロ　賄賂ワイロ
兌* 태 ダ　兌換紙幣ダカンシヘイ
倭* 왜 ワ　倭寇ワコウ　倭（やまと、今は「大和」とだけ書く）

(2d) イがある！

街 가 ガイ　商店街ショウテンガイ　街路ガイロ　街（まち）
妻 처 サイ　妻子サイシ　夫妻フサイ　妻（つま）
西 서 セイ・サイ　東西トウザイ　西洋セイヨウ　西（にし）
婿 서 セイ　女婿ジョセイ（むすめむこ）　婿（むこ、花婿はなむこ）

逝　서　セイ　逝去セイキョ　急逝キュウセイ　逝く（ゆく、いく）
誓　서　セイ　誓約セイヤク　宣誓センセイ　誓う（ちかう）
低　저　テイ　低地テイチ　最低サイテイ　低い（ひくい）
底　저　テイ　底辺テイヘン　根底コンテイ　底（そこ）
邸　저　テイ　邸宅テイタク　豪邸ゴウテイ　*邸（やしき）
涙　루　ルイ　感涙カンルイ　涙腺ルイセン　涙（なみだ）
累　루　ルイ　累積ルイセキ　係累ケイルイ　*累ねる（かさねる）
塁　루　ルイ　土塁ドルイ　塁審ルイシン　本塁打ホンルイダ　*塁（とりで）
励　려　レイ　励行レイコウ　奨励ショウレイ　励む（はげむ）励ます（はげます）
戻　려　レイ　返戻ヘンレイ　戻る（もどる）戻す（もどす）
麗　려　レイ　麗人レイジン　華麗カレイ　綺麗キレイ　麗しい（うるわしい）
瑞* 서　ズイ　瑞雲ズイウン　祥瑞ショウズイ　瑞（みず、瑞穂みずほ）
棲* 서　セイ　棲息セイソク（今は「生息」と書く）　棲む（すむ）

(2e) y がある！
挑　도　チョウ　挑戦チョウセン　挑発チョウハツ　挑む（いどむ）
跳　도　チョウ　跳躍チョウヤク　跳ぶ（とぶ）跳ねる（はねる）

(2f) y がない！
畝　묘　*ホ　*畝（せ、１畝いっせ）畝（うね）
墓　묘　ボ　墓地ボチ　墓参ボサン　墳墓フンボ　墓（はか）
※「廟 묘」の音と混同したもの。
卯* 묘　ボウ　卯（う）

(2g) ㅏがオになる！（もとは中声が・）
刻　각　コク　時刻ジコク　刻々コクコク　刻む（きざむ）
恨　한　コン　痛恨ツウコン　悔恨カイコン　恨む（うらむ）恨めしい（うらめしい）
墾　간　コン　開墾カイコン
懇　간　コン　懇談コンダン　懇切コンセツ　懇ろ（ねんごろ）
勃　발　ボツ　勃興ボッコウ　勃発ボッパツ
呑* 탄　トン(ドン)　併呑ヘイドン　呑む（のむ）
渤* 발　ボツ　渤海ボッカイ

(2h) ㅗがアになる！
爆　폭　バク　爆発バクハツ　原子爆弾ゲンシバクダン
惑　혹　ワク　惑星ワクセイ　誘惑ユウワク　惑う（まどう）
瀑* 폭　バク　瀑布バクフ　瀑（たき、常用漢字では「滝」を使う）

(2i) その他何だか中声が違う！
潰　궤　カイ　潰滅ｶｲﾒﾂ(今は壊滅と書く)潰瘍ｶｲﾖｳ　潰す(ﾂﾌﾞす)潰れる(ﾂﾌﾞれる)潰える(ﾂｲえる)
叫　규　キョウ　叫喚キョウカン　絶叫ゼッキョウ　叫ぶ（さけぶ）
巾　건　キン　頭巾ズキン　布巾フキン　巾（きれ・はば）

（「はば」と読むのは、幅（フク・はば）の略字として「巾」を使うことがあるため）

携 휴 ケイ 携帯ケイタイ 連携レンケイ 携える（たずさえる）携わる（たずさわる）
劇 극 ゲキ 演劇エンゲキ 劇薬ゲキヤク 劇場ゲキジョウ
誇 과 コ 誇大コダイ 誇張コチョウ 誇る（ほこる）
渋 삽 ジュウ 渋滞ジュウタイ 苦渋クジュウ 渋い（しぶい）渋（しぶ）渋る（しぶる）
森 삼 シン 森林シンリン 森閑シンカン 森（もり）
軟 연 ナン 軟質ナンシツ 柔軟ジュウナン 軟らか（やわらか）軟らかい（やわらかい）
幼 유 ヨウ 幼虫ヨウチュウ 幼稚園ヨウチエン 幼い（おさない）
跨* 과 コ 跨線橋コセンキョウ 跨ぐ（またぐ）跨がる（またがる）
洽* 흡 コウ 洽覧深識コウランシンシキ 洽く（あまねく）
圭* 규 ケイ 圭角ケイカク
戟* 극 ゲキ 刺戟シゲキ（今は「刺激」と書く） 戟（ほこ）
捏* 날 ネツ(デツ) 捏造ネツゾウ 捏ねる（こねる）

(3a) 終声がある！

較 교 カク 比較ヒカク 較差カクサ（昔はコウサとも） *較べる（くらべる）
告 고 コク 広告コウコク 告知コクチ 告げる（つげる）
酢 초 サク 酢酸サクサン 酢（す）
刷 쇄 サツ 刷新サッシン 印刷インサツ 刷る（する）
洗 세 セン 洗濯センタク 水洗スイセン 洗う（あらう）

(3b) 終声がない！

劾 핵 ガイ 弾劾ダンガイ
種 종 シュ 種類シュルイ 一種イッシュ 種（たね）
腫 종 シュ 腫瘍シュヨウ 肉腫ニクシュ 腫れる（はれる）
蹴 축 シュウ 蹴球シュウキュウ 一蹴イッシュウ 蹴る（ける）
不 불(부) フ･ブ 不満フマン 不用心ブヨウジン
暴 폭포 ボウ 暴力ボウリョク 乱暴ランボウ 暴風ボウフウ 暴れる（あばれる）
バク 暴露バクロ（もとは「曝露」と書いた） 暴く（あばく）
夢 몽 ム 夢中ムチュウ 悪夢アクム 夢（ゆめ）
丑* 축 チュウ 丑（うし）

(3c) ㅂがツ！

圧 압 アツ 気圧キアツ 圧力アツリョク 圧縮アッシュク *圧す（のす）
雑 잡 ザツ(ゾウ) 雑然ザツゼン 複雑フクザツ 雑巾ゾウキン *雑じる（まじる）
湿 습 シツ 湿度シツド 乾湿計カンシツケイ 湿る（しめる）湿す（しめす）
執 집 シツ(シュウ) 執務シツム 固執コシツ(コシュウ) 執念シュウネン 𠮟執る（とる）
接 접 セツ 接続セツゾク 面接メンセツ 接する（セッする） 接ぐ（つぐ）
摂 섭 セツ 摂取セッシュ 不摂生フセッセイ *摂る（とる）
立 립 リツ(リュウ) 立地ﾘｯﾁ 独立ﾄﾞｸﾘﾂ 建立ｺﾝﾘｭｳ 立つ（たつ）立てる（たてる）

(3d) その他何だか終声が違う！

喫　끽　キツ　　喫茶キッサ　　喫煙キツエン　　満喫マンキツ

※おそらく13世紀ぐらいの中国語の影響。

冊　책　サツ　　分冊ブンサツ　　冊数サツスウ　　１冊イッサツ

貼　첩　テン(チョウ) 貼付テンプ・チョウフ　　貼る（はる）

撒* 살　サン　　撒水サンスイ　　撒く（まく）

(4) 何だか全然音が違う！

欠　흠　ケツ　　欠員ケツイン　補欠ホケツ　　欠陥ケッカン　　欠く（かく）欠ける（かける）

（「欠」自体の日本語音読みはケン。日本では「缺ケツ/결」の新字体として使う）

彗* 혜　スイ　　彗星スイセイ（ほうきぼし）

◎「子」などの発音の対応

日＼韓	자	차	사
シ	子刺姿紫資雌		士仕史司四死糸伺私使思師賜詞嗣飼
ジ	字自滋慈磁	次	寺似事辞

⟨memo⟩

日本語と漢字 ——授業用資料——

2009年9月　第1版
2011年9月　改訂第2版
2016年9月　改訂第4版

非売品

慶熙大學校 外國語大學 日本語學科